



ある日突然シヨタに
なってしまった
マスターのお話♡♡



基本CG枚17枚
漫画ページ17P
総ページ数235枚

—では、その女の話をして—

— 快樂と淫靡を淫らに貪る その女の話 —

マスター「…」

目が覚めると、身体がシヨタになっていた。

しかし幾多の苦難を乗り越えてきたマスターにとって
身体が小さくなることはそれ程驚くことでもなかった。



またなにか異変がおこったのかもしれない。
一人で悩んでも解決できるはずもなく
ダウイン千ちゃんに相談しようマイルームを出た。



A futuristic, metallic interior with a large window and a dark rectangular panel. The scene is rendered in shades of blue and purple, with a grid-like structure on the left side. A dark rectangular panel is visible in the center-right area.

マインループとジョニーのサーヴァントと遭遇する。

ネロ「んお!? マスター……? どうしたのだその姿は!?

ネロが驚愕の色を顔に浮かべる



とりあえず事情を説明しようとしてネロに目を合わせる

次の瞬間



ドクン!!

大きく心臓が鼓動したかと思うと頭の中がぼんやりとする
正確に言えば理性が効かなくなっていくような感覚。



ネロ「マスター……？
マスターどうしたのだ？ぼんやりして……
なにがあったのだ!?」

ネロが距離を詰めてくる



〇〇

ネロの顔が目の前にある



ネロのいやらしい雌の香りが鼻をくすぐる
ネロのいやらしい衣装が精巣をドクドクとつつずかせる

気がつけばマスターは、ネロを犯していた





んんん...

ぼんぼん
ぼんぼん
ぼんぼん

ぼんぼん
ぼんぼん
ぼんぼん

ぼんぼん
ぼんぼん

Shota
んんん
んんん
んんん

んんん
んんん
んんん

んんん
んんん

んんん
んんん

眠っているのに膣はいやらしく
うねりうごくネロのおまんこ♡
童貞であるマスターのちんぽは
雌のいやらしく子種を搾り取る
膣のうねりに絶えきれはすもない

マスター「はへっえっ!!
ひっ!!ひいうっ!!」
ズズズ...

ネロのおまんこも、雌の本能が、
マスターのちんぽが膣内をほじるたびに
膣肉は子種を搾り取るうと
ちんぽに絡みつuki子宮はちゅうちゅうと
亀頭にキスをしてくる♡♡



暴発寸前のところでなんとか耐える
さすがに中出しはまずいと
判断したのか
なんとか瞳からちんぽを
引き抜こうとピストンを止め必死に
射精感をこらえるマスター

マスター「はぐあああつ!!ウァあつ!!
ひいひいひいっ!!」



ズズズ...



だがピストンを止めたことで
いやらしい腫の子種絞りの動きが
射精寸前の敏感チンポに
モロにくらついてしまう♡

マスター「めあうっ!!
だめっ……!!
しめつけないっ……でえっ……!!
くあぁっ……!!」

ズズズ……

なんとかちんぽを引き抜くつもりで
引き抜く動きがより一層
ちんぽを刺激して射精感を高めようとしてっ♡♡



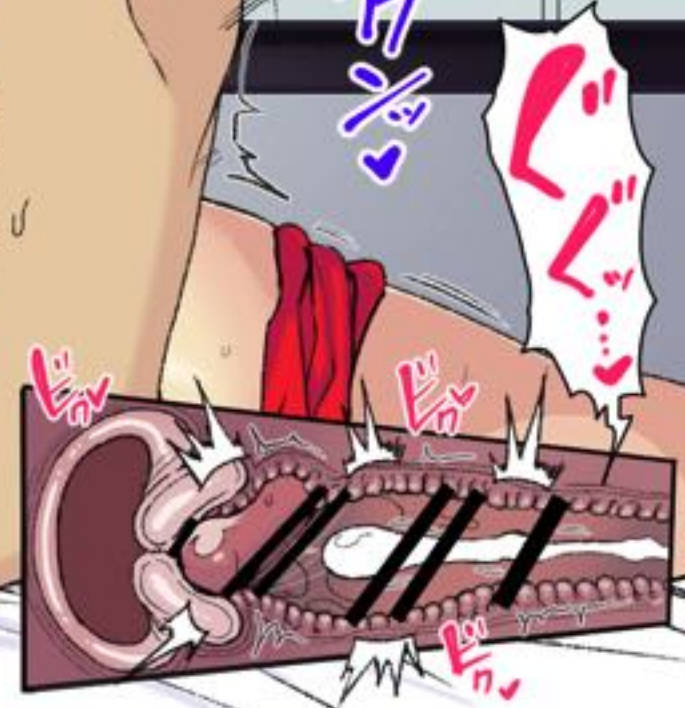
ズンズンズンズン♡♡♡



マスター「うっ……うっ……!!!
ひっ……!!!」

鼻水を垂らし必死に歯を食いしばって
射精をこらえるマスター♡

引くも押すもできない状況で
なんとか射精感を落ち着かせようと
一度腰を落とす





あぁ♡
あぁ♡
あぁ♡

あぁ♡
あぁ♡
あぁ♡

あぁ♡
あぁ♡
あぁ♡
あぁ♡
あぁ♡
あぁ♡
あぁ♡

チュウ♡
チュウ♡
チュウ♡
チュウ♡

あぁ♡
あぁ♡
あぁ♡

しかし亀頭をずっぶりとおろした先には
子種をはやくだしてっ♡といわんばかりに
吸い付くドスケベな子宮♡
マスターの亀頭にずっぶりと
子宮が絡みつきちゅちゅちゅと
子種を搾り取る♡
マスター「あっ!!! あっ!!!
あっ!!!
吸い付かなかっ!!! ネット!!!
あぁっ!!! うううあぁあぁっ!!!
ズズズ...

マスターの精巢から
一気に精液がこみ上げ!



マスター「おっ!!ふっ!!さっ!!あっ!!おっ!!ふっ!!さっ!!あっ!!おっ!!ふっ!!さっ!!あっ!!おっ!!ふっ!!さっ!!あっ!!」
 ズズズ...

ドジュンツッ!!ドジュンツッ!!
 ビュクツッビュクツッビュクツッ!!
 ビュクビュクツッ!!ビュク〜〜!!ジュルッ!!

そのまま眠っているネロの子供に
 ズグズグと手觸れればお尻が柔らかい♡♡

マスター「あぐああつ!!あつ!!
あつっ...!!かっ...!!
はああつうああつ...!!」

はじめての挿入で初めての
種付け快楽にマスターは
ただただ身を震わせ、
下半身が溶けていくような快楽に
身を任せることしかできない♡



マスターはネロの膣にちんぽを
ハメたまま、
童貞卒業&種付け交尾の
快楽余韻にしばらくひたっていた♡

ズズズ...



ネロの瞳からマスターのちんぽが引き抜かれたのは
マスターが童貞を卒業してから2時間たった時のことであった。



たまさかマスターに用事があつて
マイルームを訪れた聖女ジャンヌ・ダルクによって
マスターの行為を咎められたからである。

.....



ジャンヌ「なるほど……そういう事情でしたか。」

ネロの膣内からチンポを引き抜きマイルームの床に正座をさせられジャンヌに説教されているマスター！。しかしジャンヌも激しく咎めるようなことはしなかった。



当初マイルームの扉を開けた際にはネロとマスターがまぐわっているのを見つけた慌ててしまったがよくよく見てみればマスターの姿が小さくなっていてこのような行為をしてしまった原因をマスターから聞けば仕方のない事態のように思えたからだ。

ジャンヌ「しっ……しかしいへん……その……
滾ってしまったとはいえ……
いきなり女性を……その……
してしまうのはよくな」「JJDです……」

マスター「……」



ジャンヌ「ですので……次からは滾ってしまった時は自身で……
その……なさる用おねがいしますね……？マスター……」

マスター「…はあっ…はあっ…」

ジャンヌ「…ごうごうしたのでですか？マスター…
そんなに息を粗くして…」



はあっ

はあっ

はあっ

マスターが興奮してしまうのも無理はなかった
普段ただでさえスケベボディの聖女がその日に限って
ノースリーブ、ホットパンツ、ニーソという男の精巣を刺激して
やまないドスケベ衣装だったからだ♡♡



それにくわえて謎現象による急激な性欲の高まりである
ネロに一度中出した程度では到底収まるはずもなく
そこに新たなドスケベ雌聖女が来てしまったものだから
マスターにはたまったものではない。
なんとか僅かに残った理性でもってジャンヌに襲いかかるのを絶えている状況である。

ブルン

はあッ

はあッ

はあッ

シキ

シキ

ジャンヌ「えっ……？なっ……？
なにをしているのですか……マスター……!!」

マスターはいますぐにでも自身の肉棒をジャンヌの
膣肉にすっぶりとうずめたい欲を絶えながらも
今すぐにも破裂してしまいたいようなほど
勃起した肉棒をジャンヌの前にさらけだしてしまっている



グッ

はぁッ

はぁッ

グッ

キムッ

ギョッ

グッ

はぁッ

マスター「はうっ……ふっ……ふっ……ふっ……ふっ……ふっ……ふっ……
ジャンヌ「ひっ……はっはやくっ……
はやくしまっってください……!!」

マスター「はぁっ……はぁっ……はぁっ……!!」

マスターはジャンヌのうしろからしがみつき、
そのむちむちな太ももに腰をへこへこどかせ、
ちんぽをこすりつけてしまってる♡♡♡♡♡



ジャンヌ「だっ…だめですマスター…! やめっ…!」

マスター「はあっ! ジャンヌがあっ! ジャンヌがあっ! ジャンヌがそんなっ
エッチな恰好してるからっ!! ふ~~~~ツ!!! ふ~~~~っ!!!」

<「」><「」>♡♡

一度発情してしまったらもう止められない♡♡
発情期の犬のようにジャンヌにへこへここと
腰をふりつづけるマスター♡



あまりの発情っぷりにジャンヌも観念したのか

ジャンヌ「わっ…わっかりました…その…
一度だけ…一度だけですよ…？」

はぁっ!

はぁっ!
はぁっ!
はぁっ!

ギン!

ギン!

ジャンヌがベッドに寝そべる
四つん這いで
マスターにお尻を向けるような姿勢だ

ジャンヌ「いいですか……?
絶対に中に出してはいけませんよ……?」

マスター「はぁっ!!はぁッ!!!」

たださえ聖女のドスケベ衣装に
大興奮している上に
そのドスケベ聖女におまんこで
性処理をさせてもらえる状況に
マスターも大興奮
いまにも射精しそうな
ちんぽをジャンヌの蜜壺に
あてがう♡

ジャンヌ「出そうになったら
必ず言うてくださいね……?
マスター……?聞いていますか?」

ジャンヌの言葉も上の空に
目の前にあるとすけべな雌の膣に
マスターは自身のちんぽを一気に挿入する♡





スポプンッ!

ジャンヌ! んん! んん!

マスター! うっ! うっ!
うっ! うっ!
うっ! うっ!
うっ! うっ!
うっ! うっ!
うっ! うっ!
うっ! うっ!
うっ! うっ!
うっ! うっ!
うっ! うっ!

はぁ!
はぁ!
はぁ!

びしょ!
びしょ!

びしょ!

スッ!
スッ!

スッ!
スッ!
スッ!

ガッ!
ガッ!
ガッ!

スッ!
スッ!
スッ!

ドクッ♡

ドクッ♡

ドクッ♡

ガクッ♡

アキ♡

アキ♡

アキ♡

グッ♡

は♡

は♡

グッ♡

ドクッ♡

ジャンヌの膣内は極上の膣内だった♡
挿入した瞬間ちんぼの形に
隙間なく膣肉がねっとりと絡みつき
射精をたもすかのように
にゆるにゆるとうねりうごく♡
散々ジャンヌのドスケベ衣装で
暴発寸前だったちんぼには
ひとたまりもない最高の
おまんこであった♡

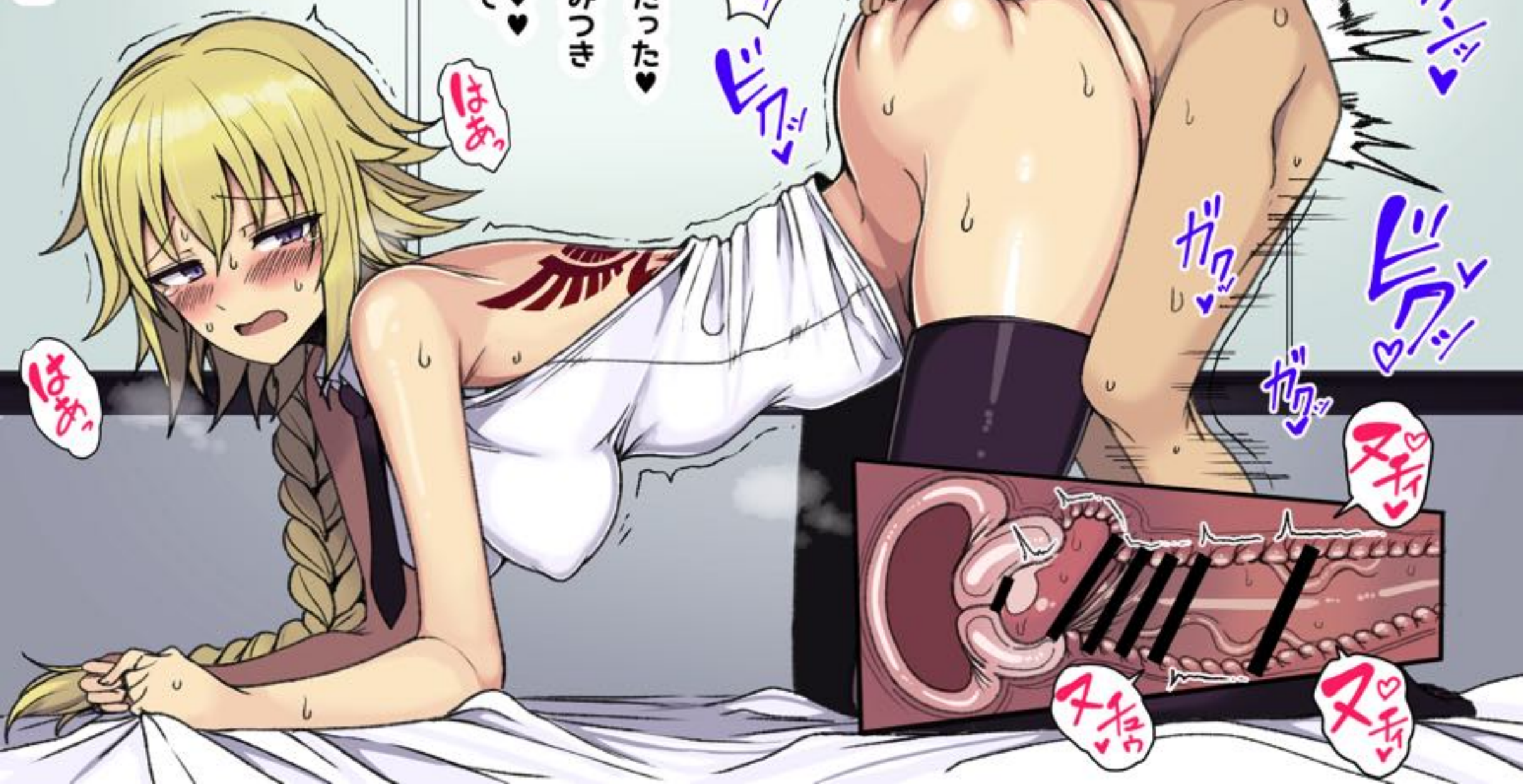
マスター「あっ!!! あっ!!!
あああっ!!!」

マスターの尿道を
精液がかけのぼりぷつくりと
一回り大きく膨らむ

ジャンヌ「んっ……
どうしたのですかっ……
でそうならっ……そっ……」

はあ♡

はあ♡



うづ

ドン

ゴクン

ゴクン

♡♡♡



うづ
うづ
うづ

ジャンヌ「ちよっ……マスター!!
中で膨らんで……!!
抜いてくださいーはやくー」

マスター「むっううづっむりいっ……
うごいっつっつたら……っ
でちゃっつ……っ」

ジャンヌ「いいからはやくっ……」

ジャンヌがおまんこから
ちんぽを引き抜くっとする♡

マスター「あっっ!!!
やめっ……!!
うごかないでっ……
あああうあああめめめめめめめめ!!!」





ドビュッ♡
ドビュッ♡
ドビュッ♡
ドビュッ♡
ドビュッ♡

ほっ♡

おっ♡

ビュクッ♡

ビュクッ♡

がっ♡

がっ♡

ドビュッ!!!ドビュンッ!!!ドビュウッ!!
ビュクッビュクッビュクッ!!!
ビュクッビュクッ!!!

マスター「おおあぁあああッ♡♡♡!!!
あああああああッ!!!
はあッ!!!うあッ!!!」

ジャンヌ「んああああッ♡♡♡!!!」

ビュクッビュクッビュクッ!!!
ビュクッビュクッ!!!
ドビュンッ!!!
ドビュドビュッ!!!

ジャンヌの子宮にマスターの
子種がドブドブと
注ぎ込まれる♡♡

あッ♡あッ♡
あッ♡あッ♡
あッ♡あッ♡

ドビュッ♡

ドビュッ♡
ドビュッ♡
ドビュッ♡
ドビュッ♡

ドビュッ♡
ドビュッ♡
ドビュッ♡

のしっ♡♡

ギンギン♡♡

はっ♡

はっ♡

マスター「ふう〜〜っ〜!!」
ふうっ
ふうっ
ふう〜〜っ〜!!

ジヤンヌ「って…
なんで背中に
しがみついているんですか…?」
マスター「…」

マスターはジヤンヌの背中に
小猿が母猿にしがみつくような
姿勢になっている

マスター「はあっ…はあっ…
もっど…もっど…
もっど…もっどしたい!!!」





ばちゅん♡
ばちゅん♡
ばちゅん♡

ばちゅん♡

ばちゅん♡
ばちゅん♡
ばちゅん♡

グググ♡
グググ♡
グググ♡

グググ♡
グググ♡

グググ♡
グググ♡

グググ♡
グググ♡

ばちゅん!! ぶりゅん!!
ぶぶん!! ぶぶん!!

ジャンヌの膣内から
射精したばかりの精液が
下品な音をたてて溢れ出す♡

ジャンヌ「まっ...!!
マスター...タアっ!!

やめっ...!!
とめてっ...!!
ひいっ...!!

マスター「はッ!! はッ!!
はあッ!!

きもちいいッ!!
きもちいいッ!!

ばすん!! ばちゅん!!
ばちゅん!!! ばちゅん!!!!

マスターのちんぽは
ジャンヌのおまんこの弱点を
カリで的確にこりゅこりゅと
無自覚にえぐってしまっている♡

はッ♡
はッ♡
はッ♡

はッ♡

はッ♡

はッ♡

ビク♡
ビク♡

ひゅ♡

うん♡

ん♡

ほおすん♡

ばばすん♡

ほおすん♡
ほおすん♡
ほおすん♡

グググ♡

グググ♡

又♡
又♡

ほおすん♡
ほおすん♡

ガク♡

おほ♡

ほお♡

ガク♡

マスターのちんぽで
刺激されたことにより
膣内はより淫らに
うねり動き先程よりも激しく
子種を搾り取ろうと
ちんぽに絡みつく♡♡♡♡♡

マスター「うぐおっ!!!
おおッ!!!ほおっ!!!」

聖女のいやらしい
膣ねぶりににより
ちんぽに甘い痺れが
走り抜ける♡♡♡

ビク♡

ビク♡

ん♡

ビク♡

ビク♡

ビク♡

ビク♡



ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん

またか
またか

びん

マスター「おおあッ!!!
おお、おお、おお、おお、おお!!!」

ジャンヌの「やっ!!!
またっ...!!!
だめですっ...!!!
マスター...たあッ!!!
だめですううっ...!!!
「やっ!!!」

マスターは
射精をするためだけの
がむしやらで激しい
ピストンでジャンヌの
膣内をすばすばと
往復する♡
ちんぽが溶けそうな
感覚を覚えながらの
激しいピストン♡♡

マスター「おぐうっ!!!
うううううううううううううう!!!
ジャンヌ「やめへええええええっ!!!」



ドビュッ♡
ドビュッ♡
ドビュッ♡

ドビュッ♡
ドビュッ♡
ドビュッ♡

マスターはちんぽを
思いっきり子宮に
叩きつけて射精した♡

ドビュンツ!!
ドビュンツ!!
ドビュンツ!!
ドビュンツ!!

ジャンヌ「ん、おあああ
あああああああああ
あああ♡♡♡♡♡」

ドビュドビュツ!!
ドビュブツ!!!
ドビュブルルツ!!!
ドビュブルルツ!!!



ああ♡
ああ♡
ああ♡
ああ♡
ああ♡

ほお♡
ほお♡
ほお♡

ドビュ♡
ドビュ♡
ドビュ♡

ドビュ♡
ドビュ♡
ドビュ♡

ドビュ♡
ドビュ♡
ドビュ♡

ドビュ♡
ドビュ♡
ドビュ♡

ドクドク♡
ドクドク♡
ドクドク♡

マスターの子種が
再び聖女の子宮へと
放たれる♡
ジャンヌも背中、
しがみつかれ、
ふりほどくことができず
無防備なままドクドクと
種付けされてしまう♡

ジャンヌ「おっ……
あああ……♡♡♡♡♡」

ドクンツツ!!ビュブンツツ!!
ビュブンツツ!!ビュ
ビュルルルツツ!!!

あああ……♡
あああ……♡
あああ……♡





ばすん!!ばすん!!ばすん!!

おジャンヌ!おジャンヌ!
おジャンヌ!おジャンヌ!



あーん♡あーん♡あーん♡
はーん♡はーん♡はーん♡

あーん♡あーん♡あーん♡
はーん♡はーん♡はーん♡

あーん♡あーん♡あーん♡
はーん♡はーん♡はーん♡

あーん♡あーん♡あーん♡
はーん♡はーん♡はーん♡

あーん♡あーん♡あーん♡
はーん♡はーん♡はーん♡

あーん♡あーん♡あーん♡
はーん♡はーん♡はーん♡

あーん♡あーん♡あーん♡
はーん♡はーん♡はーん♡

あーん♡あーん♡あーん♡
はーん♡はーん♡はーん♡

あーん♡あーん♡あーん♡
はーん♡はーん♡はーん♡

あーん♡あーん♡あーん♡
はーん♡はーん♡はーん♡

あーん♡あーん♡あーん♡
はーん♡はーん♡はーん♡

あーん♡あーん♡あーん♡
はーん♡はーん♡はーん♡

あーん♡あーん♡あーん♡
はーん♡はーん♡はーん♡

あーん♡あーん♡あーん♡
はーん♡はーん♡はーん♡

あーん♡あーん♡あーん♡
はーん♡はーん♡はーん♡

あーん♡あーん♡あーん♡
はーん♡はーん♡はーん♡

はーん♡
まーもち♡

はーん♡
まーもち♡

マイルームに激しく男女が
まぐわう音が響き渡る♡
あの後ジャンヌはマスターに
8回種付けされてなお、激しい交尾が続いていた♡
ジャンヌも3度目の種付けをされてからは
完全に諦めたのかただ一人の雌として
マスターの激しい交尾を受け入れていた♡



ジャンヌの太ももをがっちり掴んだまま
おっぱいがぶるんぶるんと揺れるほどの激しい交尾♥
シヨタとは思えないほどの力強く激しいピストンに
ジャンヌはただただただけだものじみた声で
喘ぐことしかできない♥♥♥

あゝあゝ

あゝあゝ

ジャンヌ「あゝんおツツ!!♥♥♥まツツ……!!
またっ!!♥♥♥またイギましゅっ!!♥♥♥
イグツツ!!イぐイぐイグイグツツ♥♥♥♥♥!!!」

ばす

ばす

ばす

ばす

は

ズ

は

は



ばすん!!ばすん!!ばすん!!ばすん!!!

ジャンヌ「あッッッッッッッッッッッッッッッ!!!♡♡♡♡♡」

ばちゅんっ!!ばちゅんっ!!
ばちゅんっ!!!ばちゅんっ!!!

おッッ

ドクッ

めあッ

ぼあッ

ドクッ

ぼあッ

ぼあッ

ぼあッ

ばすん

はッ

ばすん♡

キィキィ♡
キィキィ♡



先程から一つ変わった点といえば、
マスターは射精をする度に性欲が
とめどなく溢れてくるという点であつた
これも異変が原因かなにもかもわからないこと
だらけだつたがそんなことはどうでもよかつた
ただただ目の前にいる雌と交尾をし続ける
それだけが頭の中を支配していた



また♡また♡
また♡また♡
また♡また♡
また♡また♡
また♡また♡
また♡また♡
また♡また♡
また♡また♡

インギョッ♡
ビョッ♡

ぽち♡
ぽち♡
ぽち♡
ぽち♡
ぽち♡
ぽち♡
ぽち♡
ぽち♡

ぽち♡
ぽち♡
ぽち♡
ぽち♡
ぽち♡

ぽちん♡
ぽちん♡
ぽちん♡
ぽちん♡

ぽす♡
ぽす♡
ぽす♡
ぽす♡
ぽす♡
ぽす♡
ぽす♡
ぽす♡

ぽす♡
ぽす♡
ぽす♡
ぽす♡
ぽす♡
ぽす♡
ぽす♡

お♡
お♡
お♡
お♡
お♡
お♡
お♡

お♡
お♡
お♡
お♡

何度目かもわからない射精を
聖女の子宮へと注ぎ込んでいる時、
突然マイルームのドアが開かれた



あゝ♡

あゝ...♡

ガク♡

ビュウウウ♡

ビュウウウ♡

ビュウウ♡

ビュウウ♡

ビュウウ♡

ゴゴ♡

ほああ...♡

ビュウウ♡

ビュウ♡

ビュウ♡

キモチよ♡

ビュウ♡

ゴク♡

ゴク♡

は♡

ガク♡

ガク♡

は♡

ガク♡

あゝ♡

あゝ♡

そ「に」いたのはジャンヌオルタだった

オルタ「ちよっ……!?えっ……!?なっなっなっ……」
なにしているのよあんたたちいいいいいいいいいい!!!



ジャンヌとマスターが交尾しているのを見て
涙目で当惑するオルタ
だがこの状況において彼女はまさしく
ネギを背負ってやって来た鴨であった





ほおほお
おん
ほおほお

ぽんぽんぽんぽん
ぽんぽんぽんぽん

ぽんぽんぽんぽん
ぽんぽんぽんぽん
ぽんぽんぽんぽん

ぽんぽん
ぽんぽん

あーあー
あーあー

ぽんぽん

オルタはマスターの
令呪によりベッドの上に固定され、
オナホールのよう
におまんこを
さすぽすぽと犯されていった♡

オルタ「なんなのおよオツ!!
こんなツツいきなりツツ……!!♡♡♡
やるならツツ……ちやんと
やりなさいよおおおお!!!♡♡♡」

ぽすぽす♡♡♡
ぽすぽす♡♡♡

あ♡♡
ほお♡♡

コレ♡♡

あ♡♡
あ♡♡
あ♡♡

ア♡♡
ア♡♡
ア♡♡
ア♡♡

グ♡♡
グ♡♡

あ♡♡
あ♡♡

ア♡♡
ア♡♡

あ♡♡
あ♡♡

ア♡♡
ア♡♡



オルタは部屋に入るなり一方的に
ちんぽでおまんこをほじられ
涙目でわんわん喚いているが、
その反面おまんこはマスターの
ちんぽに猛烈に吸いつき
子種を激しくねだるよううねりをしてくる♥
オルタのツンデレおまんこうねりに
マスターのちんぽはすぐさま子種発射体制に突入する♥

マスター「おべっおおおおおおおおおおおおお……!!」
オルタ「ヤッ!! なかでぶくらんでっ!!
そとに!! そとに!! いいいいっ!!」

ぼんぼん
ぼんぼん

おほおほ

おほおほ

ピクピク

ほおほお

ぼんぼん
ちんぽ
ちんぽ

ガッ

やめ

あ

ピクピク

あ

グ



ピク

オルタの声はマスターには届かず、
種付けをするための
がむしゃらで激しいピストンで
オルタのおまんこをずぼずぼとほじくりたおす♡

オルタ「やらっ!! やめっ!!
や、ああああ、ああああ、ああ!!」

マスター「おおおおおおおおおおオオオ!!!」

そして激しく腰を打ち付けた後、
種付けされてしまった♡

ばぶん♡
ばち♡♡
ん♡
ん♡

おお♡

てる♡

が♡

が♡
ほお♡

ばち♡♡
ばち♡♡
か♡♡
か♡♡

あ♡

あ♡
あ♡



ぶ♡
ぶ♡
ぶ♡

ド♡
ド♡

ド♡
ド♡

ド♡
ド♡

ド♡
ド♡

オルタ「うううううう……ッッ……」

ドクツドクツとちんぽが脈打つ度に
オルタの子宮へと子種が注がれていく♡
オルタのツンデレ膈肉も本心とは裏腹に
ちんぽから子種をすべて出しきるようにと
絡みついて射精のお手伝いをしてしまっている♡

うづうづうづう……♡

ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡

ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡

ブクッ♡
ブクッ♡
ブクッ♡

ブルブル♡
ブルブル♡
ブルブル♡

ビクッ♡
ビクッ♡
ビクッ♡



そしてすべての子種を吐きつくすと同時にマスターはまたピストンを再開する♡

ばすんっ!!!ばすんっ!!!ばすんっ!!!ばすんっ!!!!

オルタ「んあぁぁあああああッ!!!♡♡♡」

ばすんっ!!!ばすんっ!!!ばすんっ!!!!

ぽちん♡ぽちん♡ぽちん♡ぽちん♡

ぽちん♡

ぽちん♡

ぽちん♡

ぽちん♡

ぽちん♡

ぽちん♡

ぽちん♡

ぽちん♡

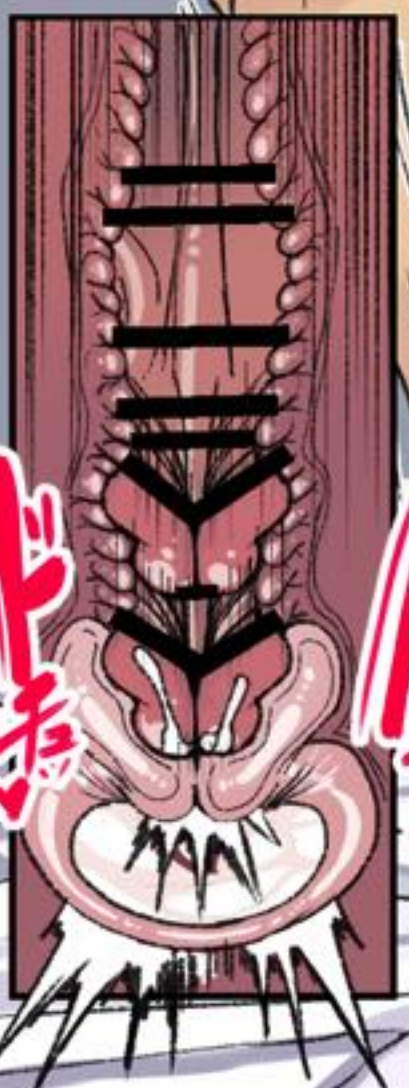
ああああ♡

ぽちん♡

ぽちん♡

ドクドク♡

ドクドク♡



オルタ「もッツ!!!♡♡やめッツ!!!やめなさいッツよ!!お!!!♡♡♡♡♡♡♡♡」
 アンタ(ジャンヌ)もッツ!!寝てッツ...ないでっつ...♡♡

おまんこをばちゅばちゅ犯されながら横で寝ているジャンヌに助けをこうもジャンヌはマスターにイキ倒されて失神してしまっている♡♡♡

ズ!!!
 ズ!!!
 ズ!!!

ズ!!!
 ズ!!!

ズ!!!
 ズ!!!
 ズ!!!

ド!!!
 ド!!!
 ド!!!

あ!!!
 あ!!!
 あ!!!
 ド!!!



オルタはやがて自分もこうなってしまうのかと思
必死にイクのを我慢するもおまんこを
無防備な姿勢で丸出しの状態のところ
バッキバキに勃起したちんぽのかりで
ズボズボされてはイッてしまうのは時間の問題であった

オルタ「やら、あッ!!いぎゅッ!!イギユたくなッ!!
だひゅけてツ!!♡たしゅけでえッ!!♡♡♡
あッ!!!あぁあ、あッ!!!♡♡♡♡♡

グッポッ
ぽんぽん
ちんぽ
ぽん

ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル
ブルブル

グッポッ
ぽんぽん
ちんぽ
ぽん

グッポッ

ちんぽ

ドクドク

ドクドク

あッ

あッ

ドクドク

ドクドク
ドクドク

ドクドク

あッ

あッ

ドクドク



マスター「おっおッッ!!! オオッッ!!!」

マスターのちんぽがプクリと一回り大きく膨らみ
龟头は傘を開いて子宮口をみっちりつぶさぐ♡
精巣から子種汁が子宮を泳ごうと駆け上っていく♡

オルタ「やらアツ♡♡! だしゅなアツ♡♡♡
なかだしするなアッ♡♡!!」

オルタは抵抗しようにも令呪で
縛られているため身動きすることができない♡
マスターはそのままオナホールに
ザーメンを吐き捨てるかのように
オルタの子宮内へと
子種汁をビュくびゅく吐き出した♡

ほおろろ♡♡!!

てろろ♡♡♡

ブルブル♡

てろろ♡♡!!

てろろ♡♡♡

てろろ♡♡♡

てろろ♡♡♡

ブルブル♡

ビュ♡

ビュ♡

やっ♡!!

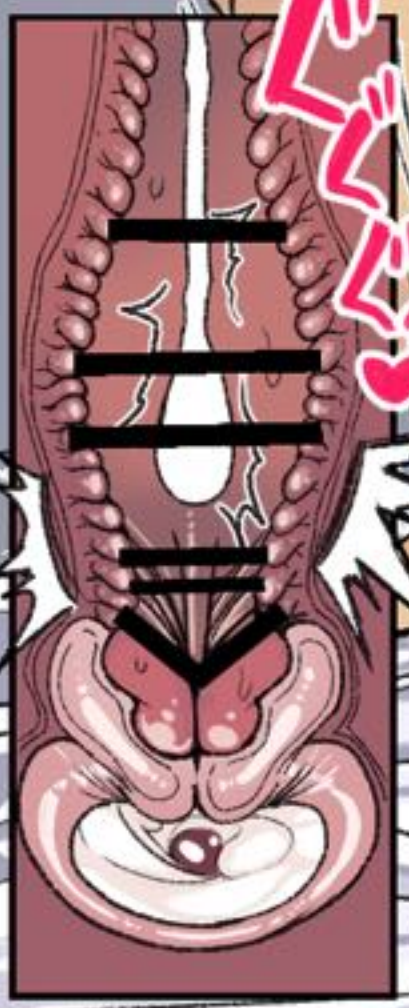
やっ♡!!

やっ♡!!

やっ♡!!

やっ♡!!

やっ♡!!



ドビュンツ!!!ドビュンツ!!!ドビュンツ!!!ドビュンツ!!!
ビュブンツ!!!ビュルルルツ!!!

オルタ「ん、あ、ああ、ああッッ...!!!♡♡♡♡♡
あちゅッ...!!!♡♡♡♡♡うん、ん...!!!♡♡♡♡♡」

マスター「ほ、おお、おお
お、おッ...!!お、おッ!!!」

おおおん♡♡♡♡♡

おん♡♡♡♡♡

ガッ♡♡

ガッ♡♡

ガッ♡♡

おん♡♡♡♡♡
おん♡♡♡♡♡

ドッ♡♡

ドッ♡♡

ドッ♡♡

ドッ♡♡

ドッ♡♡

ドッ♡♡

ドッ♡♡

ああああ!!!

ドッ♡♡

ドッ♡♡

ドッ♡♡

ドッ♡♡

ドッ♡♡

ドッ♡♡



ビュブツツビュブツビュブツ!!!

射精をする為ドクツドクツとちんぽが脈打つ度にオルタのおまんこもちんぽから子種を搾り取るようにうねり動いてくれる♡♡♡

本心とは裏腹にちんぽにだいしゆきホールドをしてしまう

自身のおまんこの恥ずかしさにオルタは顔を赤らめながらただただ子種を子宮で受け止めることしかできかった♡♡♡

ドクツドクツ♡♡♡

まんもちんぽ♡♡♡

まんもちんぽ♡♡♡

まんもちんぽ♡♡♡

まんもちんぽ♡♡♡

まんもちんぽ♡♡♡

まんもちんぽ♡♡♡

ぐぐぐぐぐぐぐぐぐぐ...

わんわんわんわん♡♡♡

ドクツ♡♡♡

ドクツ♡♡♡

ドクツ♡♡♡

ドクツ♡♡♡

ドクツ♡♡♡

ドクツ♡♡♡

ドクツ♡♡♡

まんもちんぽ♡♡♡

まんもちんぽ♡♡♡

まんもちんぽ♡♡♡





ヒューン
ヒューン
ヒューン

ヒューン
ヒューン
ヒューン

ヒューン

ヒューン

ヒューン

ヒューン

ヒューン

ヒューン
ヒューン
ヒューン
ヒューン
ヒューン
ヒューン

ヒューン

ヒューン

ヒューン

ヒューン

ヒューン

ヒューン

ヒューン

ヒューン
ヒューン
ヒューン
ヒューン
ヒューン
ヒューン



オルタに5度程射精した後
 今は正常位のような姿勢でもって
 交尾していた♡
 もっとも交尾と果たして呼んでいいのか、
 マスターによる一方的な行為に
 オルタもおまんこをスポスポと
 ほじられながら泣きわめいていた♡

ビュ♡

グウ♡

グウ♡

グウ♡

ビュ♡
 ビュ♡
 ビュ♡

グウ♡

ビュ♡
 ビュ♡
 ビュ♡

ビュ♡
 ビュ♡

グウ♡

グウ♡

グウ♡

ぽ♡
 ぽ♡
 ぽ♡
 ぽ♡
 ぽ♡
 ぽ♡
 ぽ♡
 ぽ♡

グウ♡
 グウ♡
 グウ♡

ぽんぽん♡
ぽんぽん♡
ぽんぽん♡
ぽんぽん♡
ぽんぽん♡

ぽんぽん♡
ぽんぽん♡
ぽんぽん♡
ぽんぽん♡

ぽん♡
ぽん♡

ぽん♡
ぽん♡

ぽん♡
ぽん♡

ぽん♡
ぽん♡

ぽん♡
ぽん♡

ぽん♡
ぽん♡
ぽん♡
ぽん♡

ぽん♡
ぽん♡



5回種付けされすっかりとろとろにとろけたドスケベオルタまんこがマスターのちんぽが出し入れされる度にいやらしい水音を奏でる♡
マスターはオルタの言葉に耳を貸さずただただドスケベオルタまんこの気持ちよさに身を委ねている♡

オルタ「うううううううううううう♡♡♡
これじゃっ♡♡わだひッ♡♡♡
オナホールみたいじゃないのよおっ!!
んごううッ!!♡♡するならッ♡♡♡
ちゃんっ♡♡♡♡♡こっち見てシなさいよおッッ!!♡♡♡♡♡



ぽん♡
ぽん♡

グッ
グッ

ん
ん

ん
ん

ん
ん

オルタがそう言う
とマスターは急にオルタの方を向き
涙とイキ散らかして
ぐしゃぐしゃになった顔にキスをする♡
オルタ「んんんむうツツ♡♡♡」



ぷんぽん♡
♡♡♡

ぽん♡
ちゅん♡
ぽん♡

ぽん♡
ちゅん♡

ぽん♡
ちゅん♡

ぽん♡
ちゅん♡
ぽん♡
ちゅん♡
ぽん♡

ぽん♡
ちゅん♡

んぷはあ♡

オルタ「...そっ...
そういうのは...もっつと...
はやくっ...しなさいおっ...♡♡♡」

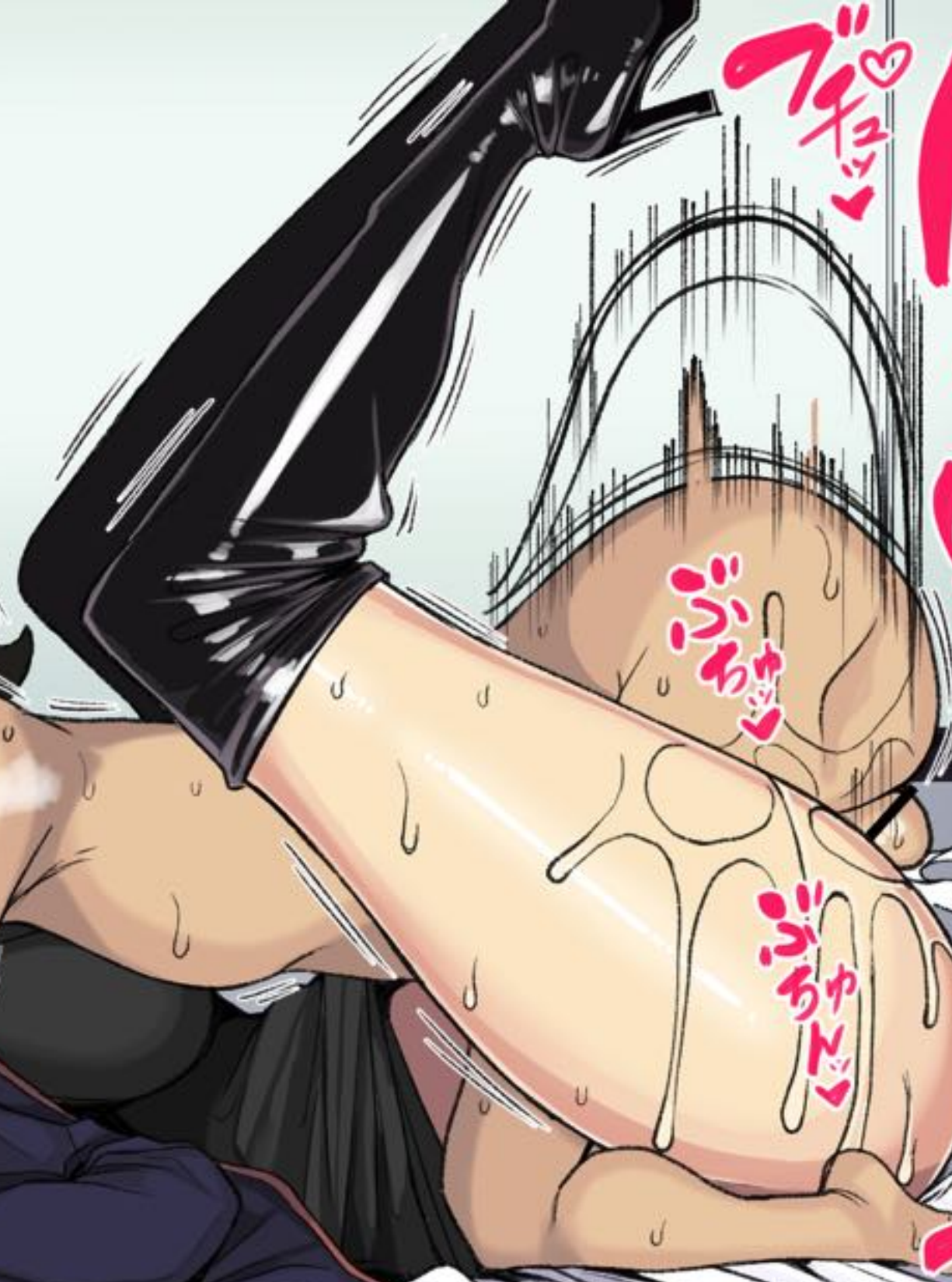
ん♡

ん♡

ん♡

ん♡

ん♡
ん♡
ん♡





オルタがそういうとマスターは
ふたたびオルタの口をふさぐ

んぬちゅっ♡むちゅっ♡
ぬちゅっ♡むちゅっ♡
れろっ♡♡むちゅっ♡

ぬちゅっ♡
ぬちゅっ♡

れ♡ちゅ♡
ん♡ちゅ♡
ん♡ちゅ♡

ぬちゅっ♡
ぬちゅっ♡

んちゅっ♡
ぬちゅっ♡

バ♡
バ♡

バ♡

バ♡

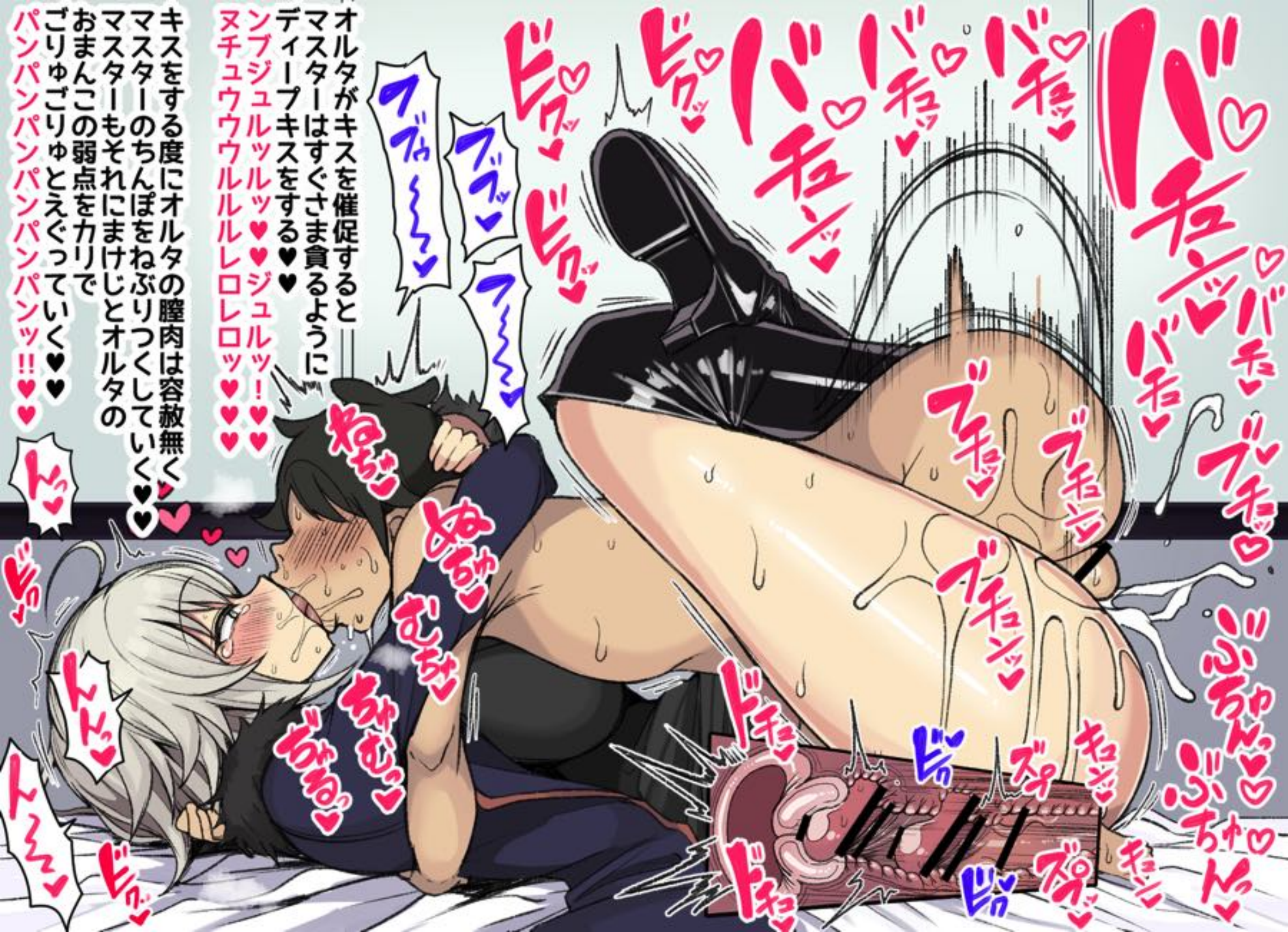
バ♡

マスターからすれば雌の口内を
自身の舌で貪りたいだけの
ディープキスでしかないのだが
オルタにとってそれはそれが
うれしくてうれしくて仕方がなかった

ふ♡

ふ♡

ふ♡



オルタがキスを催促すると
マスターはすぐさま貪るように
ディーブキスをする♡♡
ジュルッ♡ジュルッ♡
ジュルッ!!ジュルッ!!
ジュルッ♡ジュルッ♡
ジュルッ♡ジュルッ♡

キスをする度にオルタの膣肉は容赦無く
マスターのちんぽをねぶりつくしていく♡♡
マスターもそれにまけじとオルタの
おまんこの弱点をかりで
ごりゅごりゅとえぐっていく♡♡
パンパンパンパンパンパンッ!!♡♡

知ちゃん♡
ぬかちゃん♡
おしちゃん♡
あかちゃん♡
あむちゃん♡
ちんちゃん♡

ん♡

ん♡
ん♡

ん♡
ん♡

ん♡



雄と雌の愛液が奏でる
水音がマイルームに響き渡る♡

ドキュンッ!! ドキュンッ!!
ドキュンッ!!

ドキュンッ!! ドキュンッ!!
オルタの子宮に龟头が激しく
キスをする♡♡

オルタ「ふぁッ♡イキュッ♡
すごいのッくりゅっ♡♡
まひゅたッ♡まひゅたッ♡♡」

マスター「んおぁッ…!!出るッ出るッ!!
出るッッ!!おぁッ!!」

オルタ「いっしょにッ♡いっしょにッ♡
いっしょにッ♡いっしょにッ♡
いっしょにッ♡いっしょにッ♡

オルタ「んっ♡♡♡」

オルタとマスターが口でディープキスをし、
チンポと子宮もみつつちりディープキスをした瞬間ッ♡♡

んっ♡♡♡

んっ♡♡♡

上の口も子宮もみっちりと
デーパーキスをしたまま
子種をドピユドピユと
吐き出していく♡♡♡
鈴口からドピユンツ!
ドピユンツと精液を吐き出す度に
全身が溶けそうなの
快楽をマスターは感じる♡



オルタも大好きなマスターに
ディスプレイキスをされながら
子宮を子種で満たされる快楽で
失神してしまっただが、ちんぽに
おまんこをマスターのちんぽに
ねつとりと絡ませながら
いつまでもいつまでも
幸福感に浸っていた♡♡♡







マスターがマイルームの扉を開けたのは、
オルタに何度目かの種付けかもわからない射精を終えてから
丸1日もたった後のことだった

自室のベッドに失神しているネロ、ジャンヌ、オルタという

極上の女を代わる代わる犯し倒し

ようやく満足したのか三人の雌を肉布団にして眠りについた後、
当初の目的である自身の身体が小さくなっている原因を解決するべく
ダウンチちゃん元へと向かった。



だが、ここはカルデア。

人類史に残る極上の雌達が両手からこぼれんほどにひしめく理想郷
ダウイン千ちゃん元へとつく前に極上の雌とすれ違うのは必然であった。

ニトクリス「マ、マスター……？どっしたのですその姿は……」

マインルーン「おおおと同時に「ニトクリスと目が合う」



ドスケベな褐色肌に最低限秘部を隠すだけの衣装

こんな恰好を見せられて交尾欲をそそられない雄はいなかった

ガ
レ
ン
♡

♡
キ
♡

♡
キ
♡







あッツツ!!!
 ニトケリス「おッあッあッ
 あッあッあッ
 ツツ!!!
 ツツ!!!

パンパンパンパンパン
 パンパンパンパンパン
 パンパンパンパンパン
 パンパンパンパンパン
 パンパンパンパン

はぁはぁ
 ビビビ
 はぁ
 はぁ
 はぁ

おっぱい
 しゃぶり
 ニビ

おっぱい
 しゃぶり
 ニビ



マイルームに漂う雄と雌の淫臭

すっかり交尾部屋と化したマイルームで
 ニトクリスはマスターに令呪で拘束され
 立ちバツクの姿勢で犯されていた

ぽんぽんぽんぽん
 ぽんぽん
 ぽんぽん

びびる
 びびる
 びびる

は
 かん
 は

は

ぽんぽん

ぽんぽん

ぽんぽん
 ぽんぽん
 ぽんぽん

ぽんぽん
 ぽんぽん
 ぽんぽん



びゅん

あ

は

はあ

キモちゃん

ニトクリス「うぐツツ♡うツツ!!♡♡♡♡
ああああツツ…!!♡♡♡♡」

マスター「ほっ…ほあっ!!ほっ!!ほあっ!!
ばすんっ!!!ばすんっ!!!ばすんっ!!!ばすんっ!!!

マスターの容赦ないピストンが
ニトクリスのお尻を容赦無くたわませる
ニトクリス「んあッ♡♡♡♡マスったあ…ツツ…♡♡♡♡
今ならッ…♡まだッ…間に合いますから…
どうかッ…あッ…!!♡♡♡♡」

びゅん♡びゅん♡

びゅん♡びゅん♡

びゅん♡びゅん♡

びゅん

びゅん♡

ぽんぽん♡

ぽんぽん♡

びゅん♡びゅん♡

令呪で拘束され身動きが取れない体で

ニトクリスはマスターに交尾をやめるよう懇願する

しかし当然、ニトクリスのおまんこの気持ちよさを

夢中で腰を打ち続ける激しいピストンは止まるわけもない

マスターのちんぽで膣をほじられ
 否応にも果実を絞ったように
 愛液を溢れ出してしまふ蜜壺を
 目の前にしマスターは
 喉の渴きを潤すかのように
 ひたすら自身の肉棒を
 ニトクリスに叩きつける♡
 そのいやらしい雌の果実から
 溢れた愛液がニトクリスの
 褐色肌を淫靡に輝かせマスターの精巢が
 ドクドクとニトクリスを孕ませるための
 子種汁を大量生産する♡



ビンビン
 ぬめぬめ♡
 はあ♡
 はあ♡
 ぬめぬめ♡
 はあ♡
 ぬめぬめ♡

ぽん♡
 ぽん♡
 ぽん♡
 ぽん♡
 ぽん♡

ぽん♡
 ぽん♡
 ぽん♡
 ぽん♡
 ぽん♡

ぽん♡
 ぽん♡
 ぽん♡
 ぽん♡

ぽん♡
 ぽん♡
 ぽん♡
 ぽん♡

グッ

グッ



マスター「おぐおッッ！おっおッッ！！おおッッ！！」

ガク

ニトクリスの抵抗も虚しく
マスターのちんぽは子種汁発射体制になる
ちんぽは膣内でひとまわりぐぐぐと膨らみ
カりは子種が膣内からもれないように
子宮に蓋をするかのように傘を開く
ニトクリスも雌の本能か、
否応にも種付け間際で敏感になったちんぽを
いやらしい膣肉でにゆるにゆると
しごきあげてしまう♡♡

はな♡

はな♡

ニトクリス「や、あッッッ！！♡♡♡あッッッ！！♡♡♡
ひッッ♡♡♡やめへッ♡♡♡やめへえッ♡♡♡」
マスター「ほあ、ああッッッ！！あッッッ！！ああッッッ！！」



ドモ

はな♡ ドモ

はな♡ ドモ

ガク

ガク

はな♡

はな♡

はな♡

ビク

ビク

ビク

おッ

ガク

ガク

ガク

ガク

ニトクリスの子宮をマスターの繁殖力抜群子種だビチビチと跳ね回る精子一つ一つ動いているのが目視できるかのような勢いで子宮への到達を歓喜する精子たちを迎え入れてしまったニトクリスも雌の本能で身体は喜びに満ち、火照り、そのいやらしい褐色をよりいやらしく輝かせるかのように全身に汗をうかばせる

ニトクリス「おおあッ……♡♡♡おあッ……あッ♡♡♡♡♡」

マスターは精巢内の子種汁をすべて出してしつくと同時に再びピストンを再開した





ビーン♡

あ♡

ビーン♡

ガン♡

ああ♡

は♡

かん♡

ぞ♡

は♡

ばすんっ!!!ばすんっ!!!!
ばすんっ!!!ばすんっ!!!!

は♡ちゅ♡ん♡

ニトクリス「んっ、お、ああああ、ツツ♡♡♡♡!!!」

は♡ちゅ♡ん♡

は♡ちゅ♡ん♡ド♡

ド♡

ド♡

ド♡

は♡ちゅ♡ん♡

通常の雄であれば一度射精すれば
賢者モードと呼ばれるものが訪れ
性欲は一時的に落ち着くものだが
今のマスターにはそんなものは存在しなかった

むしろ雌と交尾をすればするほど
 精巣はその雌を孕ませるための
 子種汁をドクドクと生産し
 まるで、種付けしなければ辜丸が
 破裂してしまうかのような錯覚を覚える程に
 マスターの精巣は幾度となく子種汁を
 生産し続け、雌の子宮に注ぎ込み続けた♡







はぁい

はぁい

はぁい

はぁい

キモチこころ

キモチこころ

ガク

ガク

はぁい

ガク

はぁい

はぁい

バースト

バースト

バースト

バースト

グロッキー

グロッキー

グロッキー

はぁい

はぁい

何度目かもわからない
種付けを終え
ニトクリスが失神してなお
マスターはニトクリスの
蜜壺をちんぽで貪り続けた♡♡



はぁい

はぁい

はぁい

はぁい

キモチいい♡♡♡

キモチいい♡♡♡

ガク

ガク

ガク

はぁい

はぁい

バースト♡♡♡

バースト♡♡♡

バースト♡♡♡

バースト♡♡♡

グロッキー♡♡♡

グロッキー♡♡♡

ハッ♡♡♡

グロッキー♡♡♡

ハッ♡♡♡

ニトクリスと交尾をすればするほど
ニトクリスの肌は汗で淫靡に輝かき
マスターの精巢をいつまでも刺激し続けた♡



はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

キモチこころ♡

キモチこころ♡

ガク♡

ガク♡

ガク♡

はぁ♡

はぁ♡

バースト♡

バースト♡

ハッ♡

グロッキー♡

グロッキー♡

ハッ♡



そして、ニトクリスの膣は失神しているのに
マスターのちんぽを健気に子種汁を絞り出すよう
うねり、絡み続け
いつまでもいつまでも雄を喜ばせ続けたのであった♡

あー

あー

はー

あー
してる

まよたべてる

ガク

ガク

ガク

てる

ズン

ズン

ズン

グッ

グッ

ズン

ズン



おおっ

おおっ

ドクドク

ドク

ほおおっ

おおっ

ドクドク

ドクドク

ドクドク

ドクドク

ドクドク

ドクドク



はっ

ギンモチいっ

ギンモチいっ

ガッ

ガッ

ガッ

はっ

ガッ

はっ

バッ

バッ

しまんたっ

しまんたっ

バッ

びゅん

びゅん

びゅん

びゅん

バッ

バッ

びゅん



ガッ♡

ガッ♡

ガッ♡

おまゝ♡

おまゝ♡

おまゝ♡

おまゝ♡

は♡

は♡

ハッ♡

ハッ♡

アッ♡

アッ♡

アッ♡

アッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡

ハッ♡



ふい♡おお♡

またで♡ちやう♡

てる♡♡

ガッ♡

ガッ♡

ガッ♡

てる♡♡

ガッ♡

ガッ♡

また
ニトクリスの
おまんニに
種付けしちやう♡

う♡う♡う♡

あ♡あ♡あ♡

あ♡あ♡あ♡

あ♡あ♡あ♡

あ♡あ♡あ♡

あ♡あ♡あ♡

あ♡あ♡あ♡

は♡

は♡

バ♡

バ♡

プ♡

プ♡

プ♡

プ♡

バ♡

バ♡

バ♡







はっ♡

ギンもちい♡

ギンもちい♡

ガッ♡

ガッ♡

ガッ♡

はっ♡

ガッ♡

しまん♡

しまん♡

バッ♡

ズッ♡

はっ♡

ズッ♡

グッ♡

グッ♡

グッ♡

グッ♡

バッ♡

バッ♡

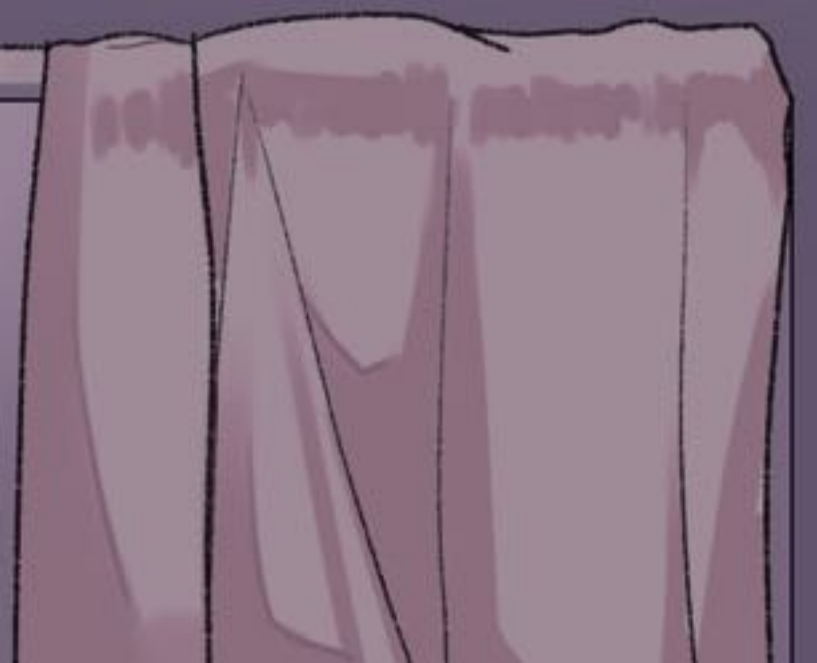
ズッ♡

ズッ♡



失神しているニトクリスのおまんこを犯し続けて
気がつけば眠っていてしまったようだった

しかし目が覚めると、そこは自室ではなかった



そして目の前には、ナイチンゲールがいた。



気づけば身体も椅子拘束され身動きが取れない

マスター「なっ……ナイチンゲール……これは一体……」

ナイチンゲール「……マスターの部屋を訪れた際に
事態はおおよそ把握しました。
マスター、貴方は幾人ものサーヴァントと交尾を
していましたね」

マスター「あううう……」

どうやらニトクリスと交尾をして眠っていた所をたまさかマイルームに
訪れたナイチンゲールに見つかってしまったようだった。
しかしナイチンゲールは冷静に、淡々とマスターに言葉を告げていく。



ナイチンゲール「おそろしくその姿…
肉体が若返えり男性がもつとも性欲が高ぶる時期に
戻ってしまったのでしよう。
しかしいくら性欲が高ぶっているとはいえサーヴァントを襲い
無責任に種付けするのは看過できません。」



ナイチンゲール「そこで私が責任を持って
マスターの性処理をさせていただきます。
マスターの身体がいつ戻るかはわかりませんが：
その間禁欲するというのも無理な話でしょう。
私が射精管理して差し上げますのでどうかご安心を」

マスター「はあっ……はあっ……」

マスターはナイチンゲールの言葉を
聞きながらも自身のちんぽをギンギンに
勃起させてしまっている

それも無理はなかった

ナイチンゲールは何故かコンドームを身にまとったような

ドスケベな衣装でマスターの目の前に経っていたからだ。

はあっ

はあっ

ギンギン

ギンギン

はあっ



ナイチンゲール「おや…早速発情していますね。

この衣装に反応しましたか？

マスターが以前この衣装を目を血走らせて眺めていたので

もしやと思いついて着用してみたのですが…効果はてきめんのようですね。

効率的に性処理をする為にマスターの欲情を煽るこの衣装は正解だったようです。」

はあ

はあ

マスター「はあっ!!はあっ!!はあっ!!
はっ!!…はっ!!!」

マスターは今にも射精しそうと

いわんばかりに精巢をドクドクと震わせ

鈴口からはカウパーをだらだらと垂れ流している

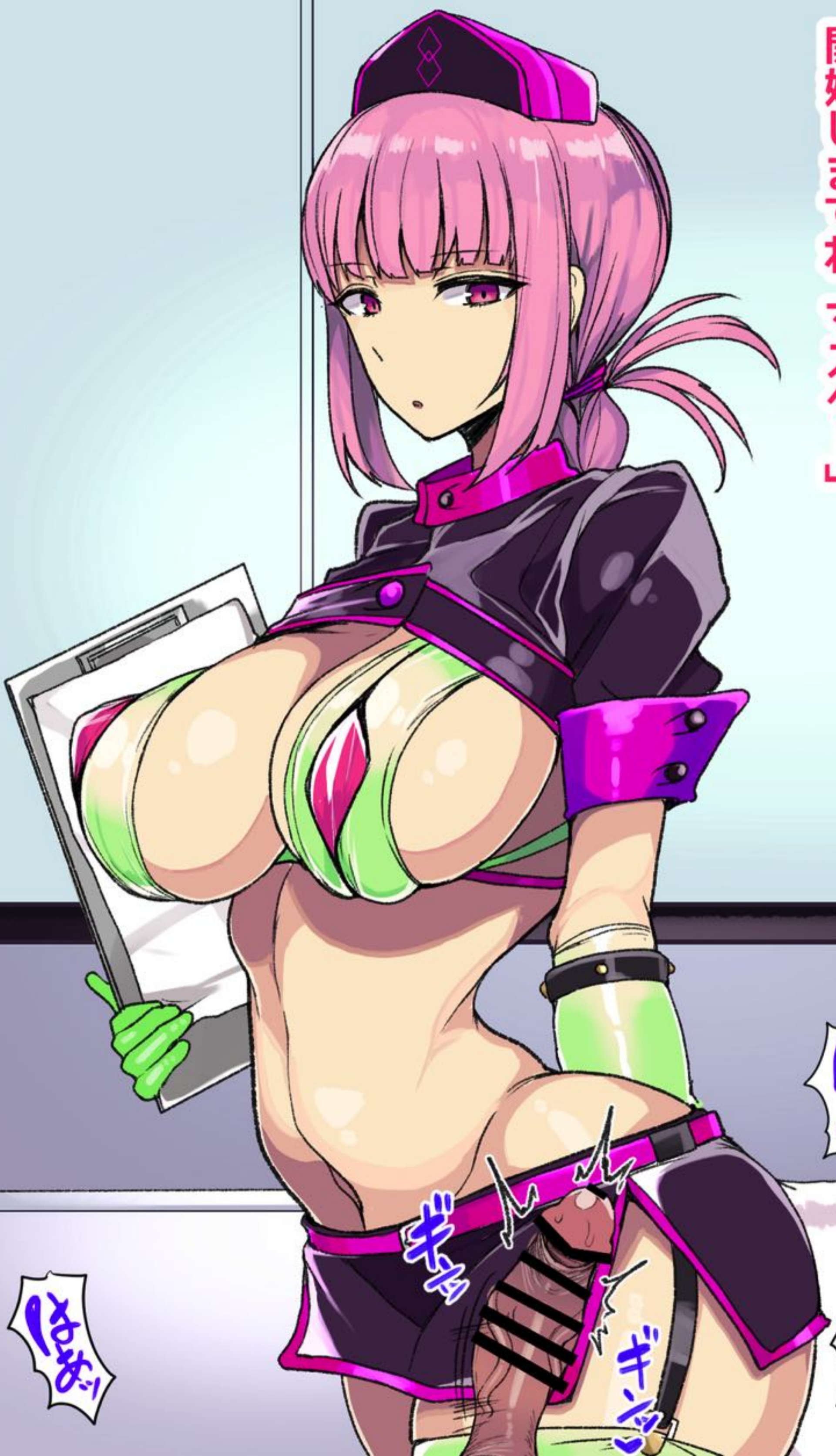
はあ

ギン

ギン



ナイチンゲール「では早速性処理を
開始しますね。マスター」



はぁ

はぁ

はぁ

ギン

ギン



はあッ

はあッ

はあッ

ギンッ

ギンッ

マスター「は、あうツ!!、あうぐうツツ!!」

二チ二チ二チ二チ二チユツ!!♥♥♥
マスターは椅子に拘束され
身動きがとれないままナイチンゲールに
高速手コキをされていた♥



カリの敏感な部分を執拗に責められ目の前には
ナイチンゲールがドスケベな衣装を着て手コキしてくれている
その上ナイチンゲールの口から
「交尾」などというドスケベなワードが
飛び出せばマスターは我慢などできるはずもない。
ナイチンゲール「マスター、なにを我慢しているのですか？
これは効率的に性処理を行うための行為なのです。
我慢などされてはこちらが困ります。」



そういうとナイチンゲールは
マスターの唇にむしゅぶりつく♡

ジュルッブジュルルルルルルッジュルッ
ムチュルルルルッ!♡♡

マスター「んんむううううううううう!?!むうううう!!
むううううッッッッ!!!」

ムチュルッ

ジュルッ
ムチュルルルルルルルルルルッ
ムチュルルルルルルルルルルッ

ムチュルッ

ムチュルッ

ムチュルッ

ムチュルッ

ムチュルッ

ムチュルッ

ムチュルッ



ただでさえ感度が高まっているところに
無慈悲なディープキスをされマスターは
素っ頓狂な声をあげてしまう♡

ナイチンゲール「おそろしく一度射精した
程度では収まるはずもないでしょう。
一度の射精に時間をかけていては拉致があきません。
さあ、早く射精してくださいマスター」

右♡右♡右♡右♡
右♡右♡右♡右♡



フヒ♡

フヒ♡
フヒ♡

ガッ♡

ゴッ♡

ガッ♡

右♡右♡右♡右♡

キッ♡

キッ♡

ゴッ♡

マスター「おおあゝあッッ!!!でふッ!!!でるッ!!!
でふうううううあゝあッッ!!!」

ナイチンゲールはその言葉を聞くとマスターの
カリ裏のみを指の輪っかでにゅぽにゅぽ♡と執拗に
攻めながらマスターの乳首を音を立ててすいしやぶる♡
♡
チュココチュココチュココチュココ♡♡
ジュルルルムチュルルル♡♡ジュルルルううっ♡♡♡
マスター「おおゝあゝあッッ!!!
あゝあゝあゝあッッ!!!」

右クッ右クッ
右クッ右クッ
右クッ右クッ
右クッ右クッ

ジュルルル♡

ジュルルル♡
ジュルルル♡
ジュルルル♡

ジュルルル♡
ジュルルル♡
ジュルルル♡

で♡
で♡
で♡

で♡
で♡
で♡

で♡
で♡
で♡

で♡
で♡
で♡



ドビュンツドビュンツドビュンツドビュンツドビュンツ!!
ドビュルツツ!!!ビュプツツビュプツツビュプツツ!!

マスターのちんぽから
勢い良く精液が飛び出す♡
本来雌の子宮をビチビチと
泳ぎ回るために放たれた
精液達はむなしくもぼたぼたと
床に落ちていく♡

グニルグニル

グニルグニル

ドクッ

ドクッ

グニ

グニ

グニ

グニ

グニ

グニ

グニルグニル

グニ

グニ

グニ



ナイチンゲールはマスターが
射精している最中も指の輪っか
にゆぽにゆぽとちんぽをしごくの
かかさず乳首もじゅるじゅるとねぶり、
マスターの精巣から
精液を
絞り尽くすまでやめなかった♡



ドクドク♡
ドクドク♡

ドクドク♡
ドクドク♡

ドクドク♡
ドクドク♡

ブクブク♡
ブクブク♡

グン♡
グン♡

グン♡
グン♡

グン♡
グン♡

グン♡
グン♡

グン♡
グン♡

グン♡
グン♡

グン♡
グン♡

ドク♡
ドク♡

ドク♡
ドク♡

ドク♡
ドク♡

ドク♡
ドク♡

ドク♡
ドク♡

マスター「ふっおっああ…♡♡♡あッ…♡♡♡あッあ…♡♡♡」

ようやく精巢がからになっても、マスターの精巢は急速に子種をドクンツドクンツと作り出し、すぐさま次の射精への臨戦態勢へと突入する

ナイチンゲール「…ぷはっ。あれほど勢い良く射精したのに、もう勃起しているのですね。これは長期戦になりそうです。マスター、お覚悟を。」





フニョフニョ
フニョフニョ

フニョフニョ
フニョフニョ

フニョフニョ
フニョフニョ

フニョフニョ
フニョフニョ

フニョフニョ
フニョフニョ

フニョフニョ
フニョフニョ

フニョフニョ
フニョフニョ

フニョフニョ
フニョフニョ

フニョフニョ
フニョフニョ

フニョフニョ
フニョフニョ

フニョフニョ
フニョフニョ

フニョフニョ
フニョフニョ

フニョフニョ
フニョフニョ

フニョフニョ
フニョフニョ

マスター「はうッ……うっぐあぁッ……!!♡♡♡」

ドビュルツツ!ドビュルツツ
ビュプツツビュプツツ
ビュプツツ!!ビュプツツ!!

ナイチンゲール「……」

ドム

ドム

ドム
ドム
ドム

……
ふんぎん

めいん

ガン

ズン

ズン

ズン
ズン
ズン
ズン

ズン

ズン

ガン

ガン

ガン

ガン

マスターはナイチンゲールに3回ほど
射精させられたあたりから何度も何度も
「交尾」を懇願していた
しかしナイチンゲールは決して首を縦に振らず
淡々と手コキをし続けていた

マスター「おまんこっ……おまんこズボズボしないとっ……
おさまらないっ……はあっ……はあっ……はあっ……うぐうっ……!!!」

あーっ
あーっ
あーっ

右コ
右コ
右コ
右コ
右コ
右コ
右コ
右コ



ドビュルツツ!!ビュフツツ!!ビュルルルツツ!!!
ナイチンゲールは困惑しながらも手コキを続けマスターの
射精が収まるのを願ったが何度手コキで
イカせてもすぐさま精巣が子種をドクドクと生産し
ちんぽはいつまでも
勃起し続けている。
そしてマスターも決して
諦めること無く射精しながら
ナイチンゲールのおまんこに
ちんぽをスポスポさせてほしいと
懇願し続ける



マスター「おまんこっ……おまんこズボズボしたらっ……！
なおるっ……からあっ……!!はあああっ!!!」

カウパーやら精液やらでドロドロになったちんぽを
ちゅこちゅこ♥といやらしい音を立てながら
性処理していたナイチンゲールがようやく諦めたのかマスターに言葉を告げる

ナイチンゲール「……なるほど、確かにマスターの
言うとおりに、ここまで射精して勃起が収まらないのは
そういうことかもしれないね……」

マスター「はうっ……うづ……うづ……うづ……!!!」



ナイチンゲール「…わかりましたマスター。性交を許可しましょう。」

マスター「えっ!?…ほっほんとっ…!!はあっ…!!はあっ…!!」

ナイチンゲール「ですが避妊具は使用させていただきます。

貴方の懇願する「交尾」ではないかもしれませんが
女性器に男性器を挿入する行為であることは代わりありません。

「さあ、そうと決まればさっそく
女性器を用いた性処理を開始しますよマスター。」

マスター「やっ…やっ…やっ…あ、あっ!!
あっ!!…ああまたでるうっ!!出るウツ!!」

キュウッ
キュウッ
キュウッ

キュウッ
キュウッ
キュウッ





ガクン

バクンバクンバクンバクン

ドゥン♡

ドゥン♡

ドゥン♡

ガクン

ガクン

バクンバクンバクン

ガクン

ドゥン♡

バクン

バクン

ドゥン♡

バクン

ガクン

ドゥン♡

ガクン

ガクン



ガクガク

ビュビュビュビュビュビュ

フェイ♡

フェイ♡

フェイ♡

ガクガク

ガクガク

ビュビュビュ

ガクガク

フェイ♡

ビュ

ビュ

フェイ♡

ガクガク

ガクガク

フェイ♡

フェイ♡

ガクガク

ナイチンゲールとマスターはベッドに移動する
マスターはベッドに寝そべりナイチンゲールが上に乗る、
いわゆる騎乗位での性交処理だ。

マスターはナイチンゲールにコンドームをつけてもらい
はやくおまんこをズボズボしたいとちんぽを
ピンピン震わせて性交がはじまるのを待っている



ナイチンゲール「ではマスター、私の女性器を用いた性処理を開始しますよ。」

マスター「はやくうっ!!!はあっはあっ……はやくうっ……!!!」

ナイチンゲールはマスターのギンギンと暴れているちんぽを手にとり自らの膣口にあてがう

ナイチンゲール「先に言っておきますが我慢などしないでくださいね。避妊具は大量に用意して有りますので、身体力を抜いて思う存分射精してください」

マスター「はあっはあっ……はあっはあっ……!!!」



つぷぷぷつ……♡♡
ナイチンゲールのおまんこにマスターの
亀頭がつぷつぷと埋まっていく♡

マスター「おツッほオツツツ!!!♡♡♡♡♡」



まだ亀頭が埋まっただけ、それも避妊具を用いての
挿入だったが先程の手コキとは違って変わり

雌の暖かい膈内に自身の生殖器がずぶずぶと挿入されていく様が
あまりにもエロすぎて、あまりにも気持ちよすぎて

舌を出してよがり狂い射精しそうになってしまっ♡

ナイチンゲール「マスター、このまま根本まで一気にいきます」

マスター「まっまっへえッ!!まひっ!!ひっ!!」

つぷぷぷつ……♡

お♡

お♡

お♡

お♡

ズブンツッ!!!

マスター「おっおっおっおっおっおッ!!! おっおっおっおッ!!!」

マスターのちんぽがナイチンゲールの
膣内につっぼりと挿入された♡

ズブンツッ!!!

ズブンツッ!!!



おっおッ!!!

ズブンツッ!!!

ズブンツッ!!!

ナイチンゲールの膣内は見た目のクールさとは
うって変わリトロトロに熱くなつていて、
それでいてマスターのちんぽにみっちり
からみついてくる極上のおまんこであった♡



ゴム越しでもにゆるにゆるみっちり
絡みついてくる膣肉に
海绵体がうずいて今にも精液を
暴発させてしまいたいそうな勢い♡
しかしマスターは挿入しただけで
イッてしまうのが
恥ずかしいのか必死に歯を
食いしばって絶えている♡
それを見かねたナイチンゲールが告げる♡



おびゅびゅびゅびゅびゅびゅ♡

びゅびゅびゅびゅ♡

おびゅびゅ♡

びゅびゅ♡

びゅびゅ♡

びゅびゅ♡

ナイチンゲール「…マスター、言ったはずですよ。我慢などしないでください。」

マスター「ひっ…ひっ…ひっ…ひっ…ひっ…」

少しでも動けば射精してしまいそうなマスターは必死に絶えているが、ナイチンゲールにとってこれはあくまで性処理。素早く効率的に搾り取るためにナイチンゲールは膣内にマスターのちんぽをずっぽりと受け止めたまま告げた。

ナイチンゲール「…ではマスター、膣内の締め付けを強めさせていただきますね」

マスター「ちょっ…おっ!!…まっ!!!」



ナイチンゲールは冷徹であった
顔色一つ変えずにおまんこをきゅっ♡と締め付ける

マスター「あぁっ!!! あぁあぁあぁあぁ!!!」

それが射精の引き金となりマスターは無様にも挿入しただけで射精してしまった♡

おおおおお!!!

おおおおお!!!

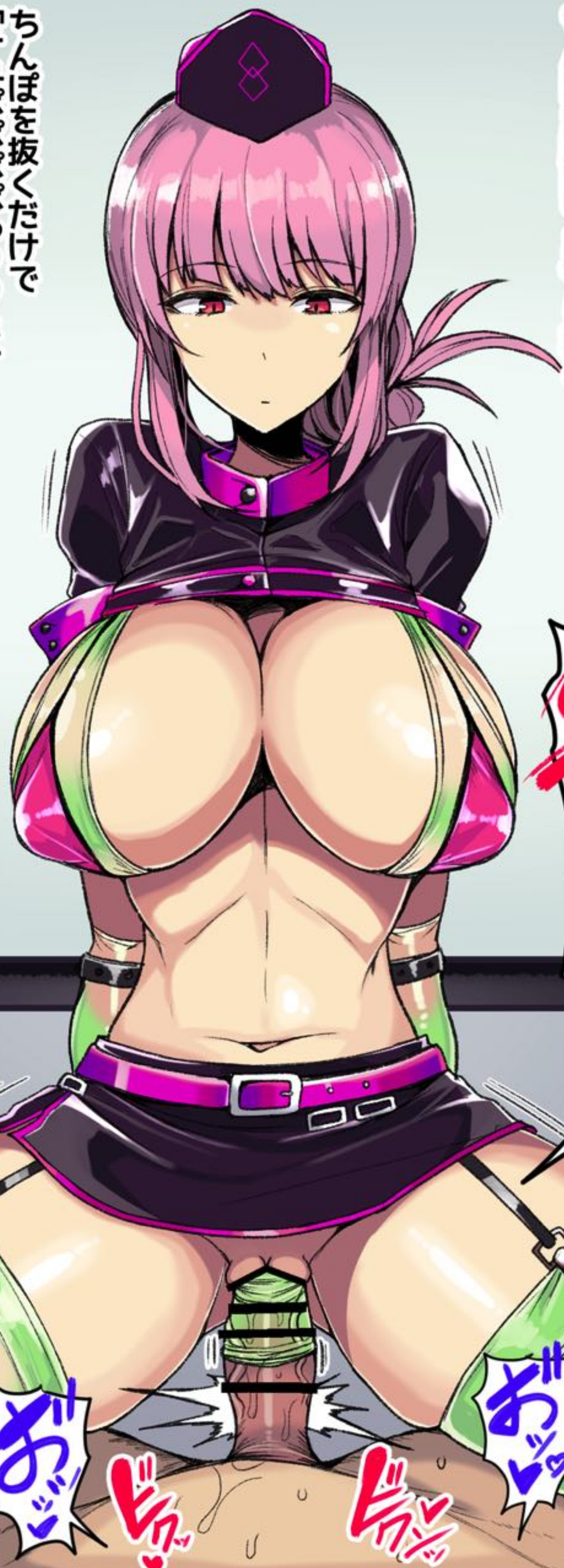
キュウウウ♡♡♡



ちゅぽぽぽぽっ♡♡♡

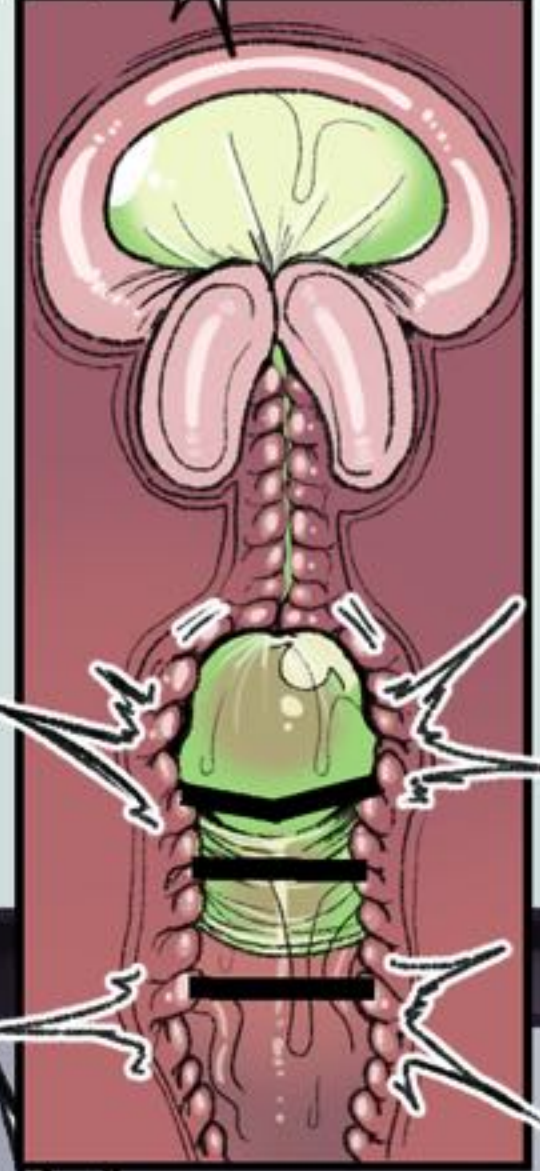
マスター「んっおおおっ!!!」

射精直後で敏感になっているマスターの
ちんぽが膣肉でこすられる



ちんぽを抜くだけで
「ちゅぽぽぽぽっ♡♡♡」と
音がなるくらい
ナイチンゲールのおまんこは
極上のおまんこだった♡♡

ちゅぽぽぽぽっ♡♡♡



ちゅぽぽぽぽっ♡♡♡

ちゅぽぽぽぽっ♡♡♡

ちゅぽぽぽぽっ♡♡♡

ちゅぽぽぽぽっ♡♡♡

ちゅぽぽぽぽっ♡♡♡

ちゅぽんっ♡♡
マスター「んっあうっ♡♡」

ナイチンゲールの膣内からちゅぽんが
引き抜かれたが、ナイチンゲールのおまんこが極上な為か
マスターのちゅぽんはコンドームを
膣内に置いてけぼりにしてしまった♡♡♡♡

ちゅぽん♡

ほめ♡

ほめ♡

ほめ♡

ほめ♡

ギョ♡

ギョ♡

ほめ♡



ナイチンゲールはただ冷静に膣内に残った
コンドームを引き抜くと
そこにはまるでおっぱいアイスのように膨らんだ
コンドームがちゅぽんっ♡と音を立てて姿を表した

マスター「はああっ……♡はああっ……♡」
ナイチンゲール「……手でしていた時より射精量が増えていますね。
やはり女性器を用いた性処理は効果的だったようです。」
マスター「はああっ……きもちいいっ……♡」
ナイチンゲールのおまんこっ……きもちいいっ……♡♡♡」
ナイチンゲール「そうですか。それは良かったです。
ではマスター、治療を続けますよ」



つぷぷぷぷっ♡♡

マスター「あっ♡あぁ〜っ♡♡♡」

ナイチンゲールはすぐさまマスターのちんぽに「コンドーム」を装着するとふたたび「女性器を用いた性処理」を再開した♡♡♡♡

つぷぷぷぷっ♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡

アッ♡アッ♡アッ♡アッ♡アッ♡



あ♡♡♡♡♡

あ♡♡♡♡♡

アッ♡

アッ♡

マスターのちんぽを膣内に
根本までずっぷりと挿入すると
ナイチンゲールはおっぱいをぶるんっ♡ぶるんっ♡と
揺らしながら身体を上下に揺らす♡
射精したばかりの敏感チンポを膣肉でしごかれ
マスターのちんぽははすぐ射精準備に突入してしまう
マスター「ぶぐっぶぐっぶぐっぶ♡ぶぐっぶぐっぶぐっぶ♡」

ナイチンゲール「マスター、悪い癖です。
また射精を我慢しているのですね。
直す気がないのであれば
私も容赦しません」

ズ
ズ
ズ♡

ば
ば
ちゃん♡

お
ぐ
う
う
う

ば
ば
ちゃん♡

ば
ば
ちゃん♡

ズ
ズ
ズ♡

ズ
ズ
ズ♡

ズ
ズ
ズ♡

ズ
ズ
ズ♡

ズ
ズ
ズ♡

お
ぐ
う
う
う



そう言うのとナイチンゲールはマスターの膝をがっしり手で押さえ込む♡

マスター「おっあ、ああ、ああッ!!!」

マスターは先程から膝をかくかくと上下させなんとか射精しないように感度をコントロールしていたがナイチンゲールに上から膝を押さえつけられ、感度をコントロールできない状態にされてしまう♡

ばちゃん♡

ギューウウウ♡

ばちゃん♡

おあおあおあ♡

ばちゃん♡



あーあーあー♡



ゴッ♡

ゴッ♡

ゴッ♡

ゴッ♡

ゴッ♡

ゴッ♡

それによりマスターのちんぽは
ナイチンゲールの膣肉子種ねぶりを
ダイレクトに感じてしまい
なすすべもなく射精するしかなかった♡♡

ばち♡♡

ばち♡♡

ばち♡♡

ばち♡♡



ズクズク♡♡

ズク♡♡



ズク♡♡

ズク♡♡

ズク♡♡

ズク♡♡

ズク♡♡

ズク♡♡

ズク♡♡

ズク♡♡

ズク♡♡

ズク♡♡

ドビュンツ!!!ドビュンツ!!!
ビュクビュビュンツ!!!ビュクビュビュンツ!!!

マスターが射精をするとナイチンゲールは
あたりまえのようにちんぽにねっとり
膣肉を絡ませ精子種汁の発射を手助けする

ドビュンツ!!!

ドビュンツ!!!

びゅん♡

びゅん♡

あ♡あ♡あ♡

びゅん♡

ドビュンツ!!!

ドビュンツ!!!

ドビュンツ!!!

びゅん♡

びゅん♡

あ♡あ♡あ♡



そして射精をし終わるとすぐさま
ちんぽを引き抜き、避妊具をつけてちんぽを
ずっぷりと膣内に入らずめると淡々と
「女性器を用いた性処理」をし続けた♡

ばばちゃん♡
ばばちゃん♡

ばばちゃん♡
ばばちゃん♡
ズン♡

ばばちゃん♡
ばばちゃん♡



ばばちゃん♡

ズン♡

ズン♡

ばばちゃん♡

ズン♡

ズン♡

ばばちゃん♡

ばばちゃん♡



ばばちゃん♡
ス♡

ばばちゃん♡

ばばちゃん♡

ばばちゃん♡

ばばちゃん♡

ばばちゃん♡



ス♡

あ♡

ばばちゃん♡

ス♡

ス♡

ス♡

ばばちゃん♡

ス♡

あ♡



ばちばちばちばち

んんん

ズンズン
ズンズンズン

ばちばち

おあまあま

おあまあま

んんん

んんん

んんん

んんん

んんん

「女性器を用いた性処理」で、
ベッドの上の大量の使用済みコンドームが埋め尽くしてなお、
マスターの性欲は収まることを知らなかった。
そして流石のナイチンゲールも、マスターの
ちんぽで膣内を何度もズボズボされているせいか
愛液がどろどろと溢れ出しマスターの下腹部と
ナイチンゲールの女性器周辺を艶かしく濡らしている。
ナイチンゲール「んっ♡んっ♡ふっ♡ふっ♡」



先程まで冷徹だった顔にも
火照りが見え始め身体のいたるところに
玉粒の汗を流しながらマスターの性処理を続けている。
それでもなお、マスターの性欲はつきることはなかった。



ばばばば
ぶぶぶぶ
んんんん

ばばば
ちゅちゅ
んんんん



ズキズキ
ズキズキ
ズキズキ

ぶぶぶ
んんんん
んんんん

あーっ
またっ
んんんん
んんんん
んんんん
んんんん
んんんん
んんんん
んんんん
んんんん

ビュブンツ!!ビュブンツ!!!
ビュブンツ!!!
ナイチンゲール「んっ...♡♡」

先程の手コキでの射精を合わせればゆうに
50回は超えているだろうか。
ナイチンゲールの顔にも焦りが見え始める



ビュブンツ!!!
ビュブンツ!!!
♡♡♡♡♡♡

ビュ♡

んっ!!!

ビュ♡

ビュ♡
ビュ♡
♡♡♡♡♡♡

おっおっおっ!!!

おっおっ!!!

ビュ♡

ビュ♡

ビュ♡

ビュ♡

ナイチンゲール「はあっ……はあっ……一体……何度射精すれば……」
ぼたぼたと汗を流してマスターの射精が終わるのを膣肉をじゅるじゅると
絡めながら問いかけるナイチンゲール
マスター「はあっ……♡はあっ……♡まだっ……もっ……もっ……♡♡」
マスターの顔を見ればまだまだ興奮状態が続いているようだった。
むしろ性欲がより高まっていくかのように感じた。
ナイチンゲールも体力の限界が近づいていた。



ナイチンゲール「…マスター、申し訳ないのですが…私も体力の限界です」

マスター「えっ!?…やだっ!!もっど!!!もっどしたっ!!」

ナイチンゲール「…そう言うと思っていました…ですので…避妊具を外すことを許可します…」

マスター「えっ!?」

はぁ♡

ビクッ♡

ビクッ♡

はぁ♡

アッ♡

アッ♡



子宮♡

子宮♡



ビクッ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

マスターはビニツとナイチンゲールの膣内で
ちんぽをのけぞらせながら喜ぶ♡

ナイチンゲール「んっ…♡♡♡

：これだけ射精しても収まらないとあれば

もうそれしか方法はありません…。

マスターが当初から望んでいた交尾を許可しましょう…」

マスター「やったあっ！！やったあっ！！はあっ！！はあっ！！はあっ！！」

ビニツ♡

やったあ…

やった…

はあ…

はあ…

ビニツ♡

ビニツ♡

んっ！！



ナイチンゲール「ですがっ…
私はもう体力の限界です…
マスターが自ら動いていただいてもいいですか…?」
マスター「うんっ!!! うんっ!!!」



マスターは膣内からちんぽを引き抜くと
すぐさまナイチンゲールをベッドに

正常位の姿勢で寝そべらせた♡

ナイチンゲールはあはあと荒い息を

吐きながらマスターに自らの膣口を向ける

ナイチンゲール「はあっ...はあっ...マスター...
忘れないでください...これはあくまで治療の二環です...」

マスター「わかってるっ...!!
はあっ...はあっ...わかってるっ...!!
はあっ...はあっ...!!」

フンッ...!!
フンッ...!!
フンッ...!!

ぐんぐん

フンッ...!!
フンッ...!!

はあ...

はあ...





マスターはナイチンゲールの膣口に

生ちんぼの鈴口を押し付ける

ナイチンゲールの蜜壺は彼女のいやらしい愛液で

びしょびしょに濡れていて膝までだらだらと流れていた♡

その為龟头を膣口にあてるだけでちゅくちゅく♡

といやらじく音をたてる様がマスターの情欲をより一層高める♡♡

マスター「はあっ...はあっ...♡

じゃあいれるよっ...いれるよっ...!!!」

ナイチンゲール「はい...どうぞ好きなだけ...」

フッ...フッ...!!!

フッ...フッ...!!!

フッ...フッ...!!!

はま...

はま...

ぐ...ぐ...!!!



ちゅぽおっ...♡
マスター「おはっ!!!あっ...!!!」

ナイチンゲール「んんッ...♡」

ナイチンゲールの愛液でびしょびしょに

なったおまんこが亀頭をちゅるりと飲み込んでいく♡

マスター「はっ♡はッ♡はあっっ♡♡」

そしてそのまま、膣肉は子宮へとちゅぽを

導くかのようににゅるんっ♡ちゅぷんっ♡と

亀頭に絡みつきマスターは

全く腰を押し出していないのに自分の

意思とは反してずぶずぶとちゅぽが

挿入されてしまう♡

キュンキュン...♡♡♡

ガッ♡

ガッ♡

ガッ♡

ガッ♡

びん♡

びん♡

もちろん亀頭の先端には雌の総本山、
ドスケベな子宮が子種をせっかちに欲しがり
亀頭にちゅうううう~~~~~♡♡♡と
吸い付いてしまっている♡♡
膾肉一つ一つが意思をもってちんぽを
ねぶっているかのようなえげつない
子種絞りに加えて子宮は亀頭に
対して熱烈なティープキス♡



チュウウウウウッ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ

んっ



ドキュンッ!!!ドキュンッ!!!
ドキュンッ!!!ドキュンッ!!!ドキュンッ!!!ドキュンッ!!!
ピュピュピュピュピュピュピュピュピュピュ!!!
ナイチンゲール「んッッ♡んおッ!!!♡♡♡!!!」
マスター「ぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐうぐう!!!♡♡♡!!!
はうッッッッッッッッッッッッッッッッッッ!!!♡♡♡!!!

ドクッ♡
ドクッ♡

ドクッ

んおッ

ザン♡
ザン♡
ザン♡

おん!!!

ドクッ♡

ドクッ♡

ザン♡

ザン♡

ドクッ

おん!!!

ドクッ♡

ドクッ♡

ドクッ♡

ピシヤッ！ピシヤッ！！とまるで

水鉄砲でも噴射したかのような精液が子宮内を跳ね回る♡

散々ナイチンゲールに無駄死にさせられてきた

精子達の分まで自分たちが子宮の中を泳ぎ回るとでも

体現しているかのような勢いの射精♡♡

ちんぽからピュプンツ！！ピュプンツ！！と勢い良く

精液が放たれる度にマスターは全身を震えさせ

射精快楽に身を委ねる♡

ナイチンゲールも雌の本能で子宮に

元気で繁殖力抜群の精液を送り込んでくれた

ちんぽをねぎらうように

ねっとりちんぽに膣肉を絡ませてしまっている♡♡



そして当然、

この一回で交尾がおわるはずもなかった♡



体中に大粒の汗をかきいやらしい雌臭を放つそのさまはより一層マスターの射精感を高めた♡
容赦ないピストンで**ばすん！ばちゅん！**とナイチンゲールの膣肉をちんぽでえぐり射精しそうになるとちんぽが溶けそうな感覚にやだれを垂らしてうち震えながらバネのようにちんぽを膣口まで抜き一気に子宮口に叩きつけて種付けをしまくった♡



ばすん！ばちゅん！
♡♡♡♡♡

あー♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡

あー♡♡♡♡♡

あー♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡

♡♡♡♡♡
♡♡♡♡♡

すでにナイチンゲールの子宮は
マスターの子種で満たされ、膣内からマスターの
子種があふれたし互いの下腹部をとるところに
濡らしているがそれでもお構いなく精巢が
空っぽになるまでマスターはナイチンゲールに
種付けをし続けたのであった♡♡♡♡♡









ドクドク

グニャグニャ

ドクドク

グニャグニャ

グニャグニャ

グニャグニャ

グニャグニャ

グニャグニャ

グニャグニャ

グニャグニャ

グニャグニャ

グニャグニャ

グニャグニャ

グニャグニャ

グニャグニャ

グニャグニャ

グニャグニャ



もうマスターに理性など存在していなかった。

カルデアをさまよい、道中さまざまな
女サーヴァントと交尾をしまくった

そしてカルデアのある一室

その部屋はあまりに異質

カルデアで一番「雌の匂い」がする部屋の扉に
マスターは手をかけた

「ふふふ…お待ちしておりましたよ…♡マスター♡♡」

部屋を開けると同時に雄の睾丸を刺激するいやらしい雌の匂い
目の前にはいまにもこぼれおちんぼどのたわわな乳房
それでいて折れそうなほどのくびれから
男を魅了してやまない安産型のお尻

はぁ

はぁ

はぁ

はぁ

その全てが、雄の生殖本能を刺激した。

まるで「雄が求める理想の雌」を具現化したような女、
殺生院キアラがそこ「にいた

殺生院キアラ「ふふふ…♡♡♡
いまにも襲い掛かってきそうな勢いですね♡マスター♡
どうやら、わたくし目の論みは成功したようですね♡」

マスターはギンギンにいきりたち
ズボンを張り裂かんとしている
ちんぽを隠そうともせずはあはあと
荒い息をはきながら
キアラの言葉を聞いている

はあ♡♡♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡

はあ♡



殺生院キアラ「ええ♡マスターが想像する通り、
今回の事の発端はすべて私の仕業です♡
あなたの身体を小さくしたのも
性欲がとめどなく溢れてくるようにしたのも♡
道中様々なサーヴァントと交尾をさせ理性を完全に失わせたのもすべて、
わたくしとまぐわうため♡
マスター♡あなたは今私の理想の「雄」です♡♡」

人理修復を成し遂げた貴方が
雄の本能に狂い、
理性を失い獣になった♡
そんな貴方とする交尾は
想像だけであつたらぬものかと♡
想像したあの日からわたくし、
ついてもたつてもいらなくなつてしまつて♡♡
どうか許してください♡♡マスター……？♡

♡♡♡♡♡

ほぁ♡
ほぁ♡
ほぁ♡
ほぁ♡
♡♡♡♡♡

そう告げられたマスターはすぐさま自身の衣服をかなぐり捨て
ギンギンに勃起したちんぽをキアラの前に露わにした

殺生院キアラ「んふふ…♡♡♡♡♡」

殺生院キアラもマスターのちんぽを見てぺろりと
舌なめずりをする♡

♡♡♡♡♡最高の交尾が始まる

♡♡♡♡♡

はあ
はあ
はあ

♡♡♡♡♡

ギンギン

んふふ

はあ

はあ

♡♡♡♡♡

ギンギン



殺生院キアラ「やあ、マスター♡
快樂浄土の海に溺れまじようや…♡♡」



♡♡♡

はあ

はあ

♡♡♡

ギョッ

キッ

♡♡♡

はあ

はあ

♡♡♡



♡♡♡

はぁ♡♡♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

ぎゅ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

はぁ♡

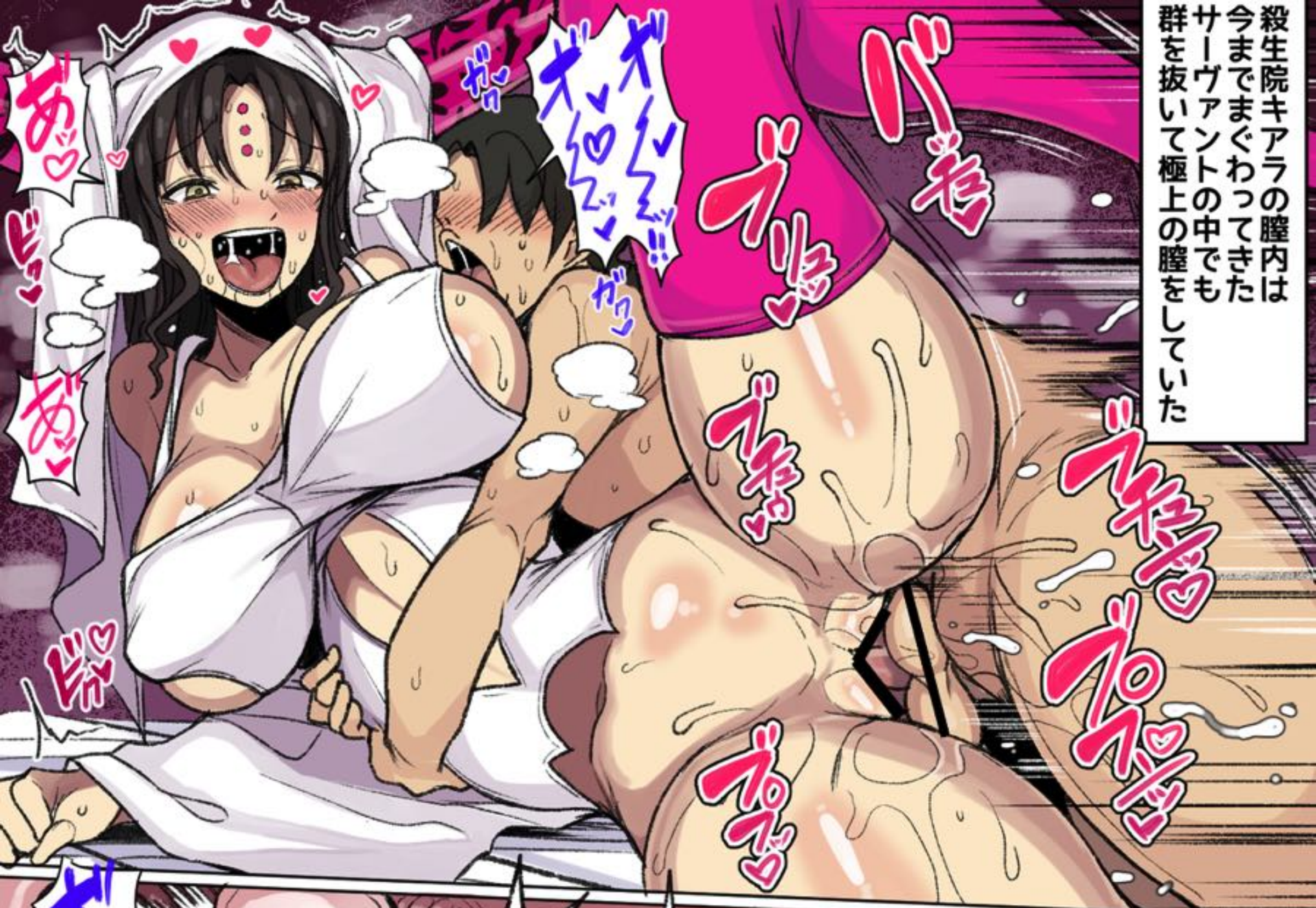
はぁ♡

その様は到底、セックスと呼んでいいような生易しいものではなかった。雄は子種を放つために、雌は子種を受精するために。

雄と雌との境界線がゼロになったかのような激しい交尾が続いていた



殺生院キアラの膣内は
今までまぐわって来た
サーヴァントの中でも
群を抜いて極上の膣をしていた



一度挿入すれば膣肉は
マスターのちんぽの敏感なところを
執拗にねぶりつくし絡みつき
雄が腰を動かしていなくてもまるで
ピストンして膣内をほじっているかの
ような感覚が雄のちんぽを甘く蕩かせる。



その上ピストンを加えてなお
膣肉は真空パックでもしたかのように
むっちりとしんぼに絡みついたまま

子種を放つためのうねりを加え、
雄がピストンしやすいうように膣内は
トロトロの愛液で溢れているというのだ。

たとえ百戦錬磨のヤリチンであっても
殺生院キアラの膣肉にちんぽを
うすめたのであれば、
童貞のようにすぐさま射精してしまうだろう。



ともすれば、つい先日まで童貞だった
マスターが殺生院キアラと交尾を初めて
まだ5分しかたっていないくとも、
10発膣内射精してしまうのは必然であった。



マスターはキアラの極上の贅肉の感触に舌を垂らし猿のように腰をふりながらもじわじわと様々な体位を試しながらキアラのおまんこをほじくり倒してんぞ





そして何度射精しても萎えないマスターのちんぽはキアラの想像を超えていたのか、

キアラがイッている最中にも射精しながら腰を振り続けるマスターのがむしやらかな交尾にキアラのおまんこは簡単に落城してしまう

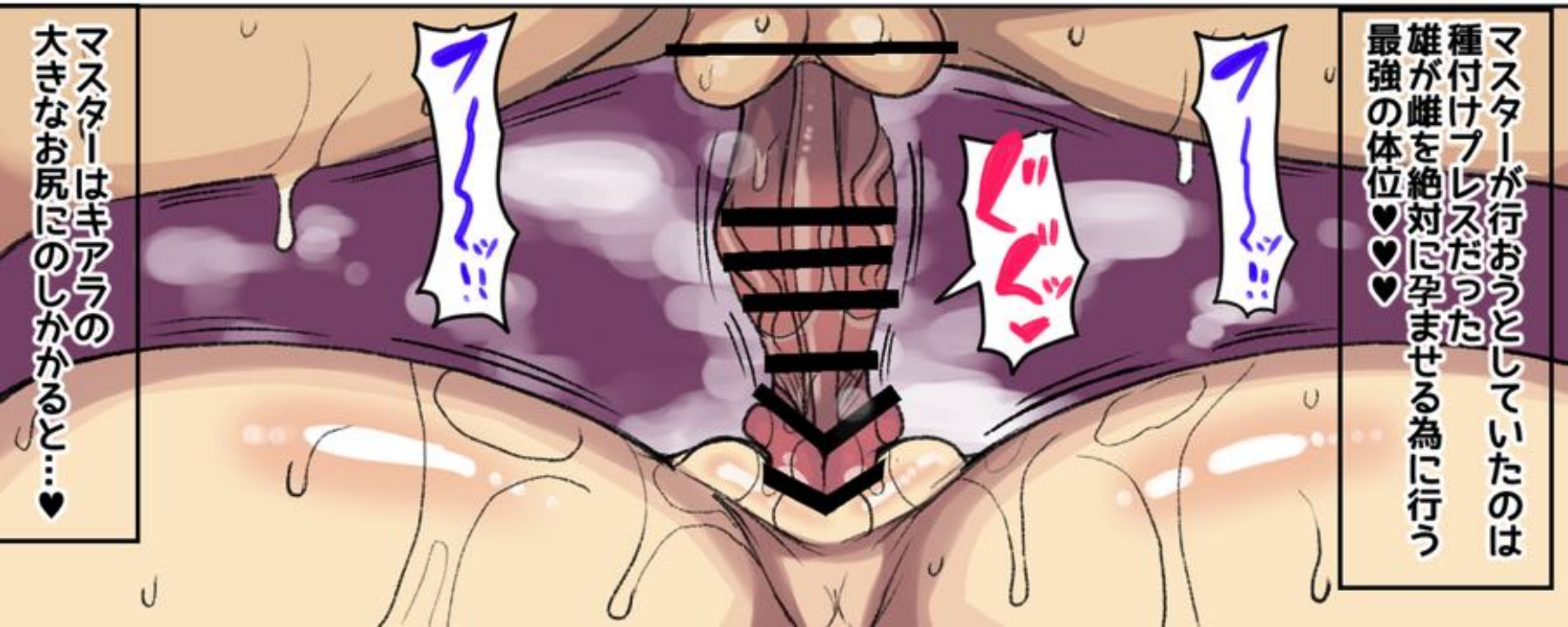
マスターにさんざんおまんこの弱点をほじられ続けイキ散らかしたキアラをベッドにまんぐり返しの姿勢で寝かせる♡

しかし既に数え切れないほどの種付けを行って尚キアラの膣口は雄のちんぽを求めてくばくばと口を開けている♡
雄のペニスもまだまだ一向に萎える気配を見せずにカウパーと精液がまじりあった子種汁を亀頭の先端からたらだと溢れさせている♡



マスターが行おうとしていたのは種付けプレスだった雄が雌を絶対に孕ませる為に行う最強の体位♡♡♡

マスターはキアラの大きなお尻にのしかかると…♡

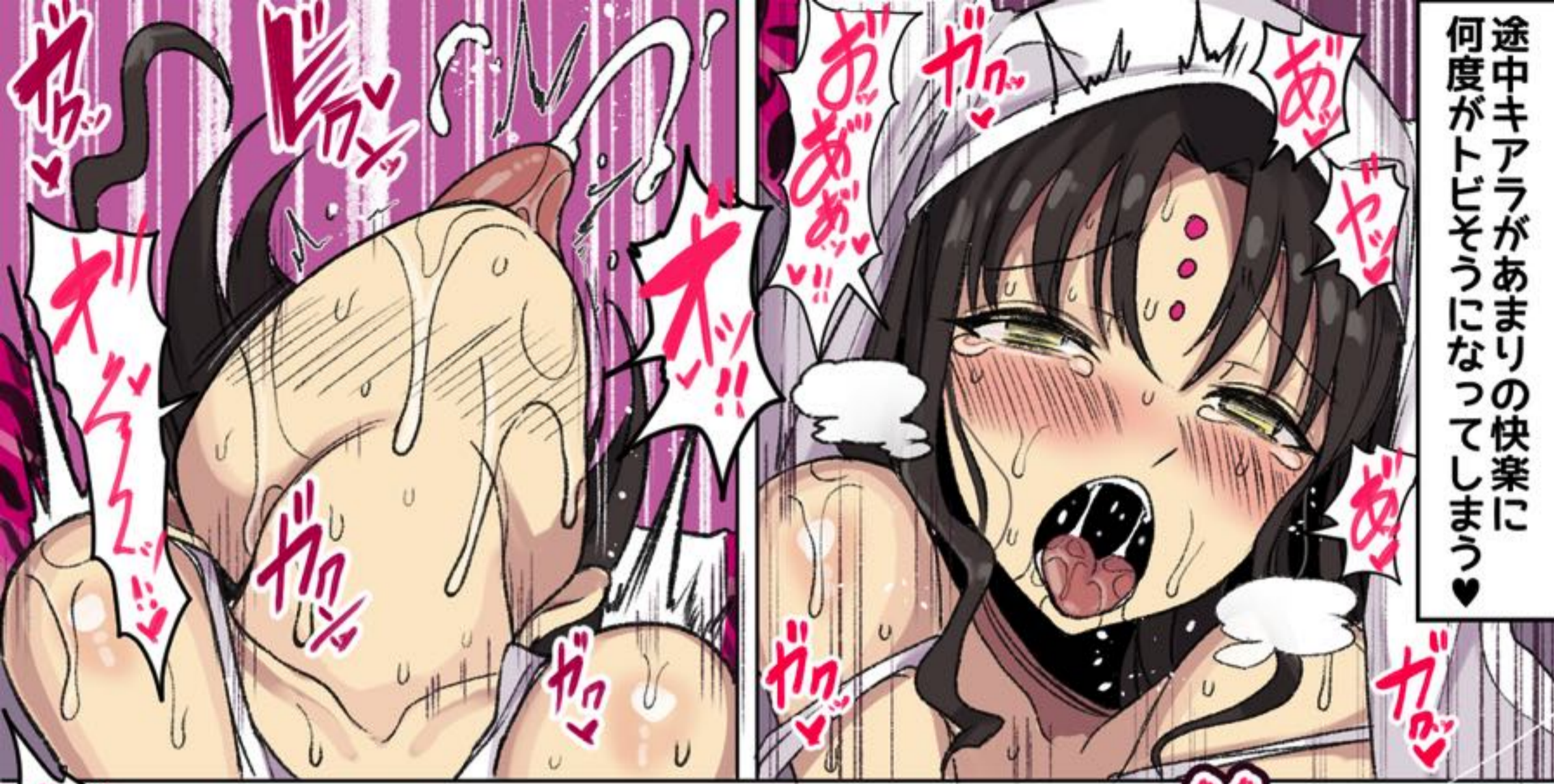




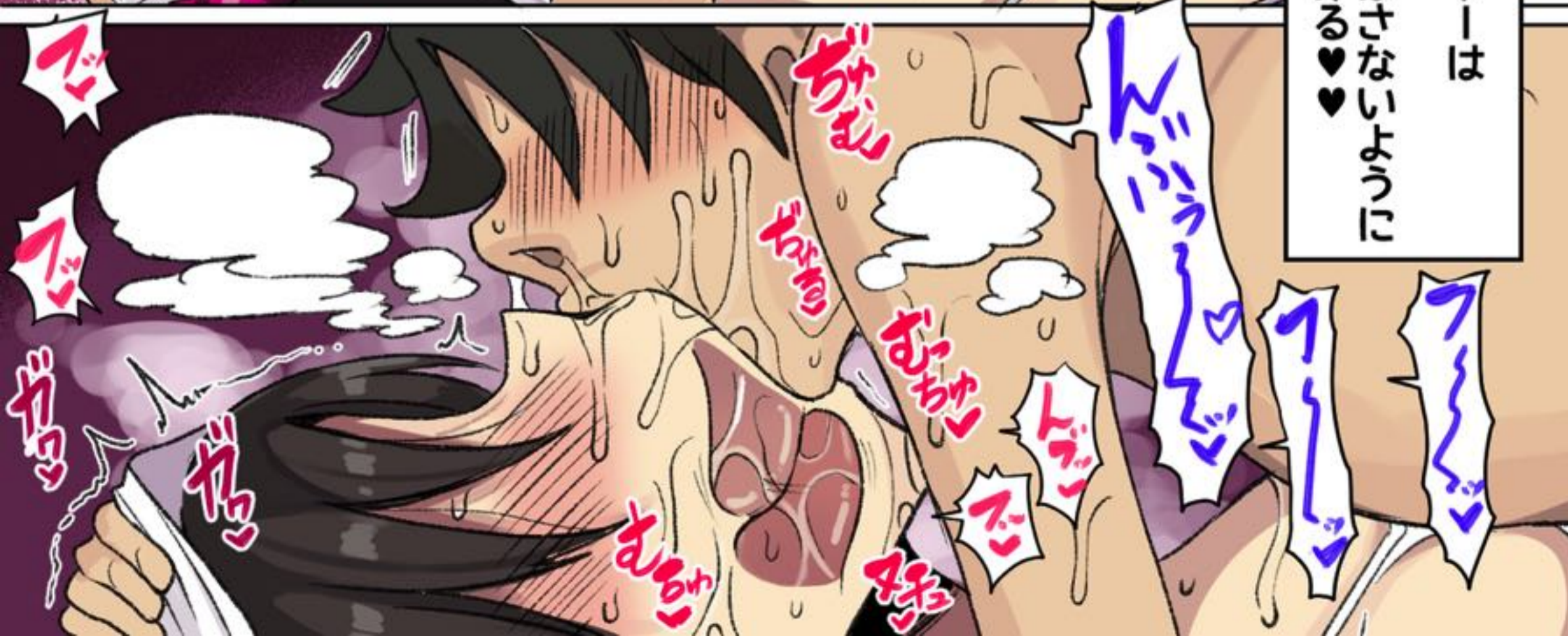
キアラの子宮口にマスターの
全体重がのしかかり雌犬のようによがり叫ぶ
マスターもキアラのお尻に
のしかかりながらおまんこを
すぼすぼとちんぽでほじる快楽に
途方もなく気持ちよさそうに、
ただただひたすらに、ばすんばすん!!と音を
鳴らしてキアラの子宮に
亀頭を叩きつけていく♡♡



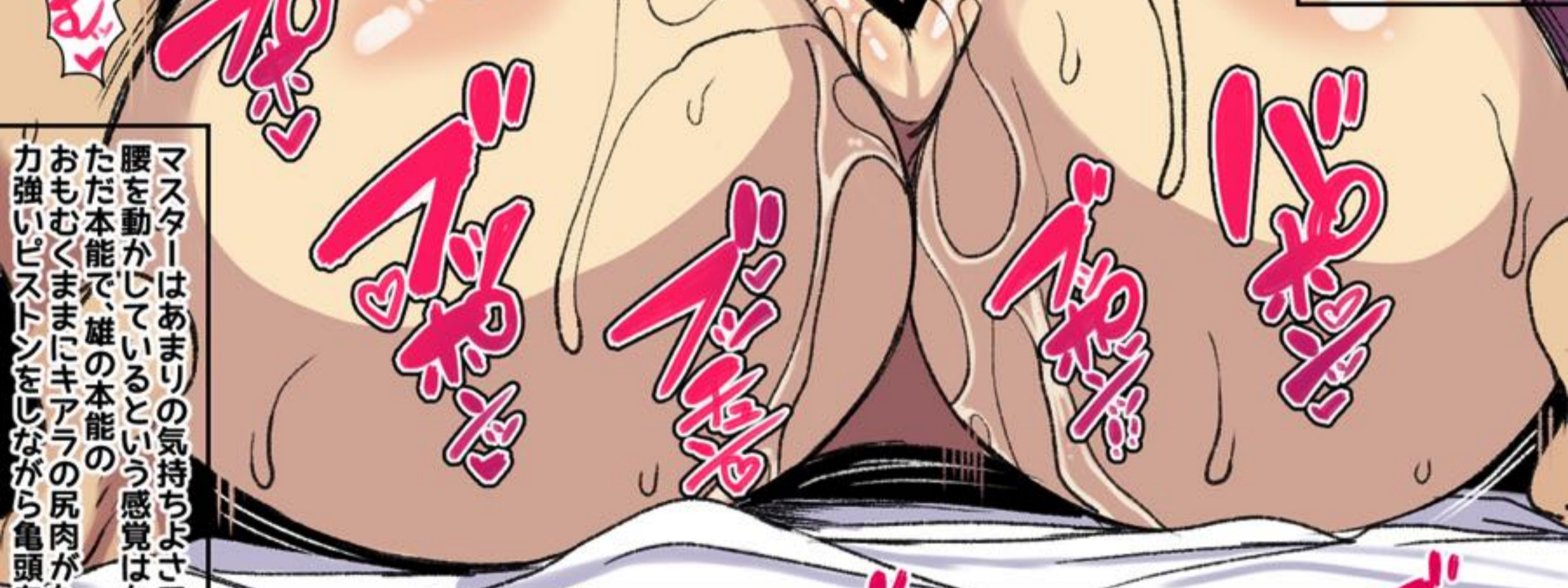
途中キアラがあまりの快楽に
何度がトビそうになっ
てしまっ♡



しかしその度にマスターは
キアラの唇をうばい、
舌をねぶり意識をとばさないように
ディープキスをし続ける♡♡



しかしマスターも限界が近かった
マスターも意識が飛びそうになるのを
必死に絶えながらピストンをし続けるのを
何度も意識が飛びそうになっているキアラの
おまんこは常にちんぽをめちゃくちゃにねぶり倒し
マスターは種付けピストンをしながら
なんともなんとも射精していた♡♡



マスターはあまりの気持ちよさでもはや自身で
腰を動かしているという感覚はなく
ただ本能で、雄の本能の
おもむくままにキアラの尻肉がたわむほどの
力強いピストンをしながら龟头を子宮へと叩きつける♡







目が覚めると、マスターは自室にいた。

そして、姿も何もかももとに戻っていた。



不安ではあったが夢の中でまぐわったサーヴァント達と離してみても「一度交尾した」ような素振りには垣間見れなかった

いやらしい夢をみただけなのだろうか。

もんもんとしながらマイルームに再び戻ろうとする時、殺生院キアラとすれ違っ

キアラの方に目を向けてみてもいつも通り
ぺこりと挨拶をしてその場を立ち去ろうとする

やはり夢だったか
そう思って再び歩を進めようとする
キアラがすれ違いざまにマスターの耳元にこう告げた



キアラ「…また…♡
楽しみにしておりますわね…♡」

